CG-BARFX2

取扱説明書

Y613-04015-02 Rev.C

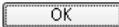
本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-BARFX2 を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE........... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

まず準備が必要

使用環境を確認する

チェック1

プロバイダとの契約､工事は完了していますか？

本商品を使ってインターネットに接続するには、フレッツ・ADSL、B フレッツなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2

モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムなどが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください。確認方法については、ご契約のプロバイダにお問い合せください。本商品とパソコンを接続するには、LAN ケーブルが必要になります。別途 LAN ケーブルを購入される場合は、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルをご購入ください。

設定に必要な情報は準備できていますか？

本商品の設定を行う際に、各サービス別に以下の情報が必要です。プロバイダとの契約時に、以下のような情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダにお問い合わせください。

■ PPPoE で接続する場合（フレッツ･ADSL ／ B フレッツなど）

・接続ユーザー ID
・接続パスワード
・サービス名（プロバイダから指定された場合のみ）
・DNS サーバの IP アドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■ IP 自動取得（DHCP）で接続する場合（Yahoo! BB ／ CATV など）

・コンピュータ名（プロバイダから指定された場合のみ）
・DNS サーバの IP アドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■固定 IP アドレスで接続する場合（固定 IP サービス）

・WAN 側の IP アドレス
・サブネットマスク
・ゲートウェイアドレス
・DNS サーバの IP アドレス

上記の名称は、プロバイダによって異なる場合があります（例：接続ユーザー ID →アカウント、ユーザ ID、ログイン ID など）。ご不明な点は、ご契約のプロバイダに確認してください。

パソコンの環境はそろっていますか？

■ LAN コネクタ（10BASE-T ／ 100BASE-TX ポート）

LAN コネクタがない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、LAN コネクタを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLANボード、LANカード、LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

・ 拡張スロット（PCI バスまたは ISA バス）に LAN ボードを取り付ける
・ PC カードスロットにLANカードを取り付ける
・ USB コネクタにLANアダプタを取り付ける

■ OS

本商品は、Windows XP ／ 2000 ／ Me ／ 98SE、Mac OS X など、TCP/IP をサポートする OS に対応しています。

■ Web ブラウザ

本商品の設定は、Webブラウザ（フレームに対応しているもの）で行います。パソコンにMicrosoft Internet Explorer 5.5 以降または Safari 1.2 以降がインストールされているか、確認してください。

本商品の特長

本商品には、次のような特長があります。

・ 高速スループットで B フレッツ、有線ブロードネットワーク、フレッツ ADSL、Yahoo! BB をはじめとした各種 FTTH、ADSL、CATV インターネットに対応。
・ 複数のパソコンから同時にブロードバンドインターネットアクセスが可能。
・ 初心者でも戸惑うことなく設定が可能な「ルーター簡単接続ツール」を付属、スムーズな初期設定画面（セットアップウィザード）の表示が可能。
・ WAN 側に 1 ポート、LAN 側に 100M/10Mbps スイッチング HUB を 4 ポート搭載。全ポート AUTO MDI/MDI-X 対応でストレート、クロスに関係なく LAN ケーブルを接続することが可能。
・ 固定 IP、DHCP、PPPoE マルチセッション、ダイレクト PPPoE 接続、Unnumbered IP など、多彩な接続形態に対応。
・ UPnP に対応し、最新の Internet Messenger アプリケーション MSN Messenger 6.2 に対応。
・ フレッツ・ドットネット、フレッツ・ グループアクセス(東日本)/ フレッツ・グループ(西日本)、フレッツ・コミュニケーション(東日本)/ フレッツ・コネクト(西日本)と、多くの NTT のサービスに対応。
・ VoIP アダプタ（NTT- 東日本、NTT- 西日本、ケイ・オプティコム）に対応。
・ SPI 機能、DoS 攻撃防御、ICMP 返答制限、アクセス制限など高度なセキュリティ機能を搭載。
・ PC データベース、スケジューリング機能、URL フィルタを使用することで、ペアレンタルコントロールを実現。
・ VPN パススル（PPTP/L2TP）に対応。
・ ダイナミック DNS に対応〈DynDns.org（無料）、IvyNetwork（有料）に対応〉。
・ ポート開放（バーチャルサーバ設定、DMZ 設定）により、サーバの公開やネットワークゲームに対応。

PART 2

ネットワークに接続しよう

パソコンのネットワーク設定をしよう

本商品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IP の設定

●Windows XPで利用するときは

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

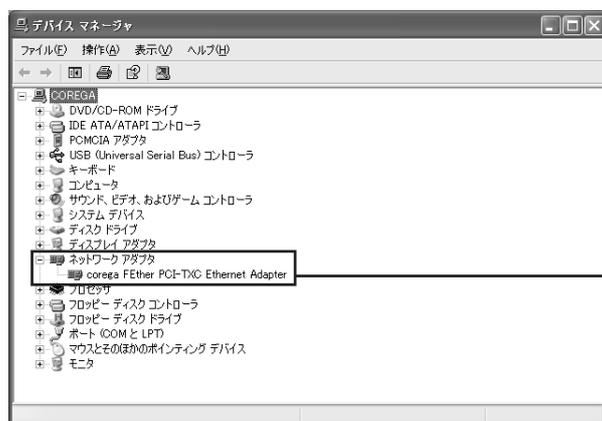
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブを表示して［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

メモ **×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。**

■TCP/IP プロトコルを確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」をクリックします。

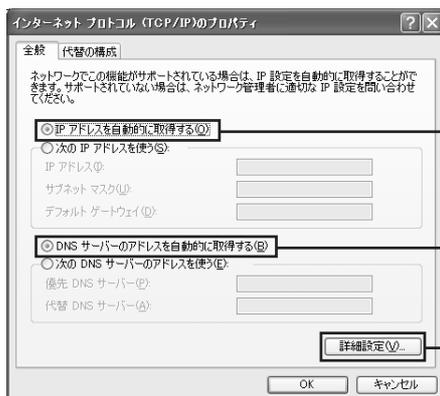
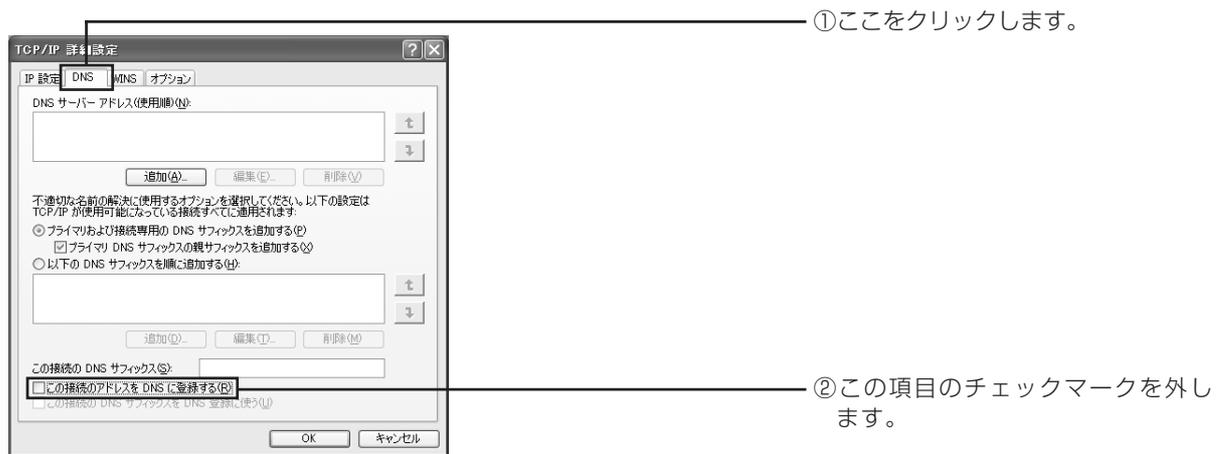
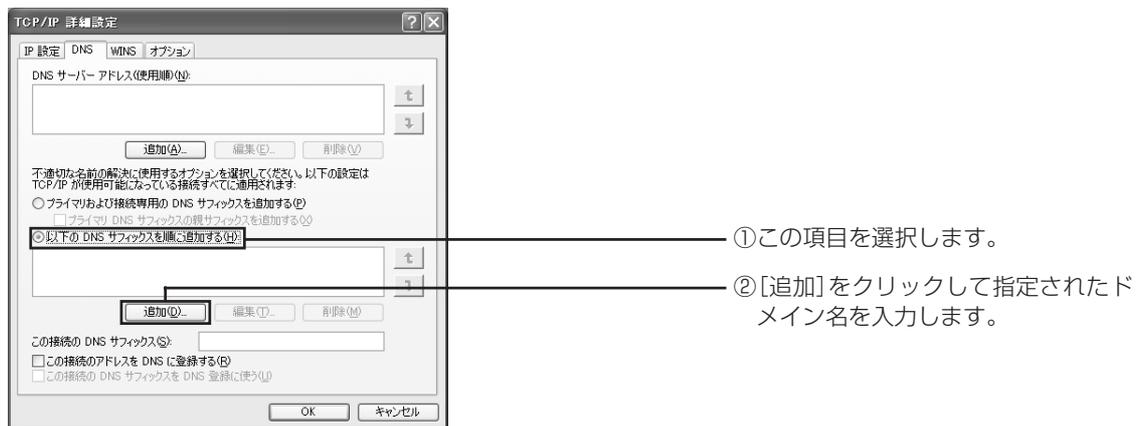
2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 「全般」タブにある「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスをDNS に登録する」のチェックを外します。

注意 **プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で、［閉じる］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

13 次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.18）に進みます。

●Windows 2000で利用するときは

メモ　この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　［ハードウェア］タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　一覧の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確かめます。

注意　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

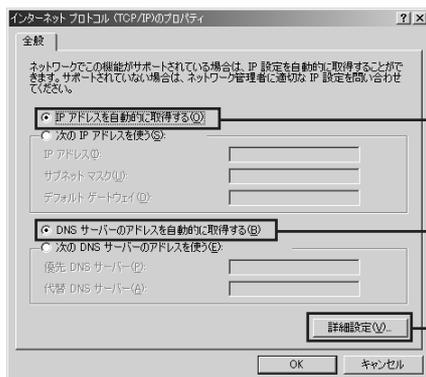
■ TCP/IP プロトコルを確認する

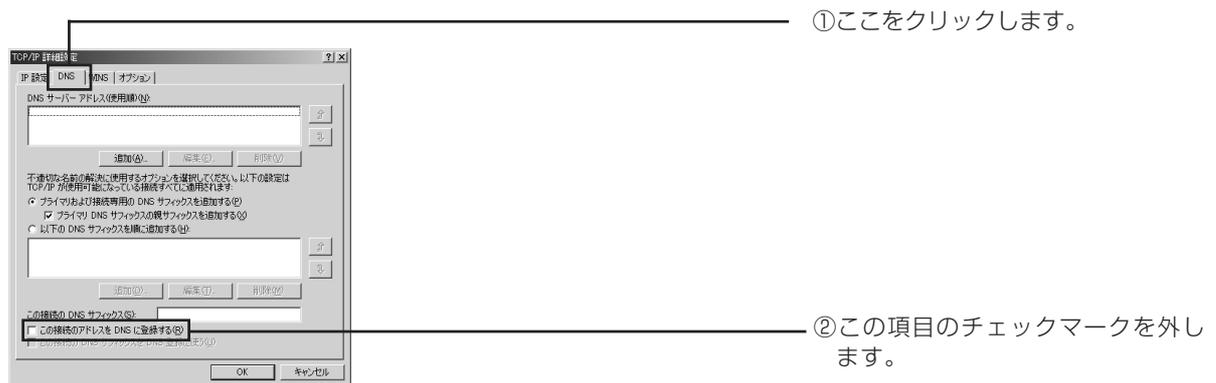
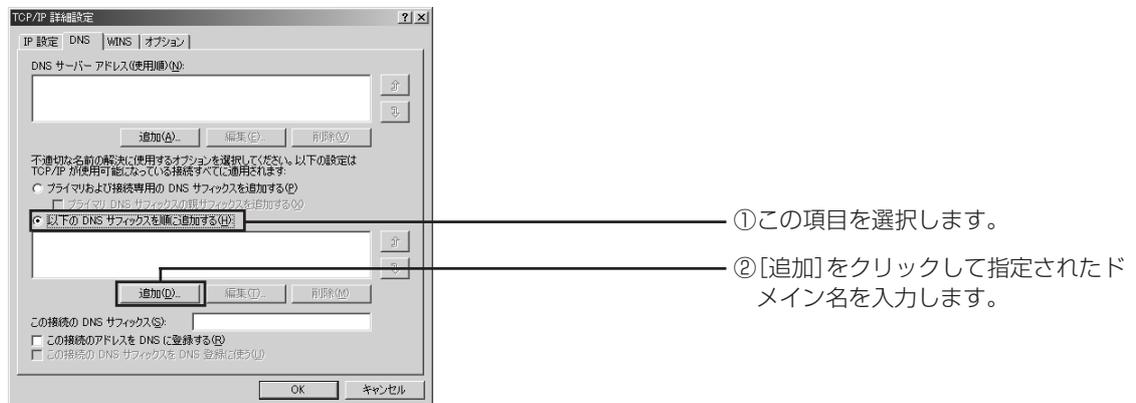
1　［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.13）をご覧ください。

4　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5　「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6　「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNS に登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7　［OK］をクリックします。

8　「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で［OK］をクリックします。

9　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

11 次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.18）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

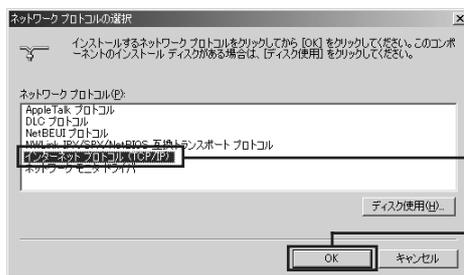
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1　［スタート］ －「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で ［インストール］ をクリックします。

4　「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］ をクリックします。

5　「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、［OK］ をクリックします。

6　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

7　［OK］ をクリックして 「ローカルエリア接続のプロパティ」 画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

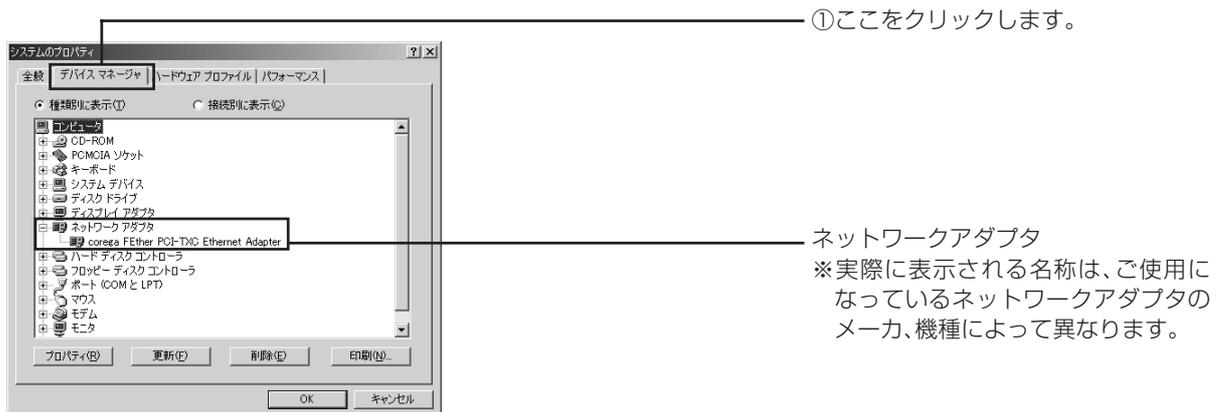
インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順4（P.11）からの設定を行ってください。

●Windows Me/98SEで利用するときは

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

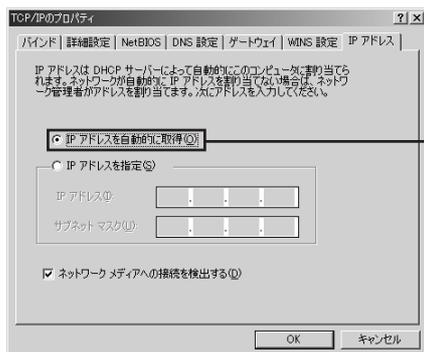
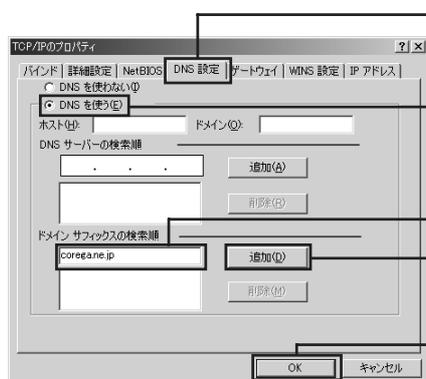
2　「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3　「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

メモ　**「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.17）をご覧ください。**

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

メモ　**「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタの方を選択します。**

5 「IP アドレス」タブで「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 ［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

Windows の OS 用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROM ドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）に Windows の OS 用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

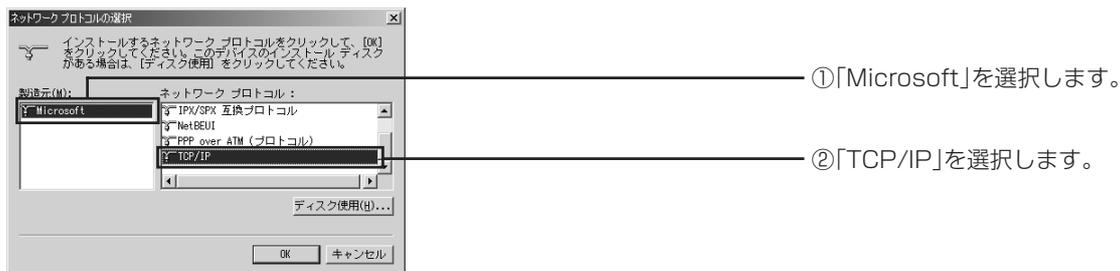
8 次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.18）に進みます。

■TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ネットワーク」の画面で、［追加］をクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択します。

4 「OK」をクリックします。

5 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞ XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確かめます。

6 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順4（P.15）からの設定を行ってください。

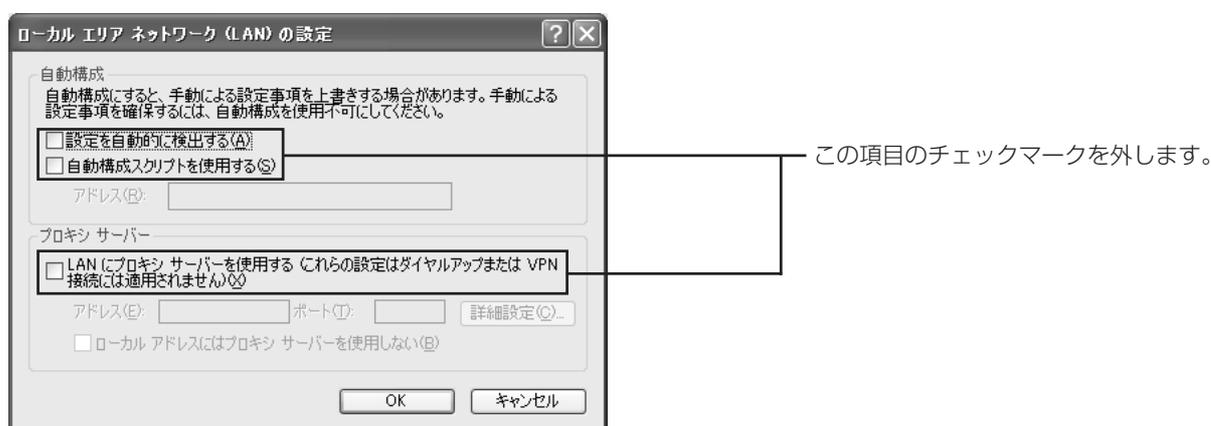
Webブラウザの設定をしよう

本商品を利用できるように、Web ブラウザの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他のWebブラウザの場合は、Webブラウザのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3　「LAN の設定」をクリックします。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　［OK］をクリックします。

6　「インターネットオプション」画面で［OK］をクリックします。

7　次に「パソコンと本商品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

パソコンと本商品を接続しよう

●本商品を設置する場所について

・本商品に付属の「はじめにお読みください」「クイック設定ガイド」をお読みになり、使用時の注意などについてご確認ください。
・本商品の上、下面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本商品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを取り付けることで、本商品を立てて設置できます。取り付け方法は、「はじめにお読みください」をご覧ください。

■設置に適した場所

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

■設置に適さない場所

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

●本商品の電源を入れるには

■本商品の電源の取り方

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

■本商品の電源の入れ方／切り方

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグをコンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタをコンセントから抜くと電源が切れます。

・本商品には電源スイッチがありません。ACアダプタをコンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
・ACアダプタを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。
・長期間ご使用にならない場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、本商品の電源を切ってください。

●パソコン、モデムと本商品を接続する

本商品とモデム、パソコンなどネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

メモ すべてのLANケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。また、カテゴリ5以上のLANケーブルのご使用をおすすめします。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面の1～4のいずれかのLANポートにLANケーブルを接続します（①）。

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します（②）。

4 本商品背面のWAN ポートに付属のLANケーブルを接続します（③）。

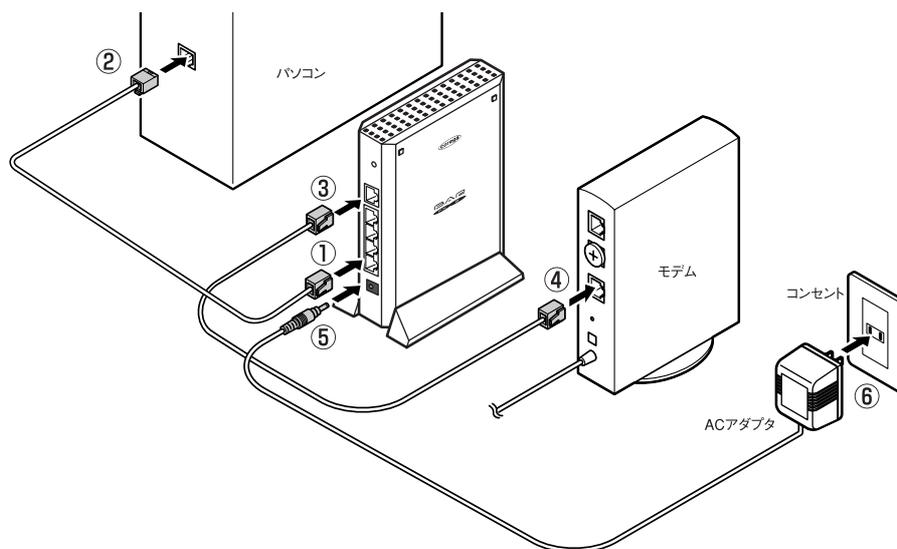
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤）。

8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥）。前面のPower、WAN LEDが点灯していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 ケーブルを接続したLAN側のポートのLANの100M、Link/Actの各LEDが点灯していることを確認します。

本商品の設定をしよう

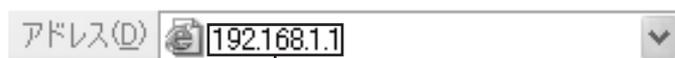
パソコンから本商品を使ってインターネットに接続できるように設定を行います。本商品の設定はWebブラウザで行います。本商品に接続されているパソコンのうち、1台から設定作業を行い、WebブラウザにはInternet Explorer 5.5以降をご利用ください。これ以外のWebブラウザでは、正常にセットアップが行えない場合があります。推奨ブラウザについては、P.6の「チェック4」をご覧ください。

●簡単な接続方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダによって異なります。P.5の「チェック3」でメモした情報を準備してください。

- 設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、OSのファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトウェアが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にソフトウェアを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。ソフトウェアの停止、起動の方法は、ソフトウェアのメーカへお問い合わせください。
- Windows XP SP2のファイアウォール機能をお使いの場合は、「Windows セキュリティの重要な警告」画面が表示されます。「ブロックを解除する」をクリックして設定を続けてください。

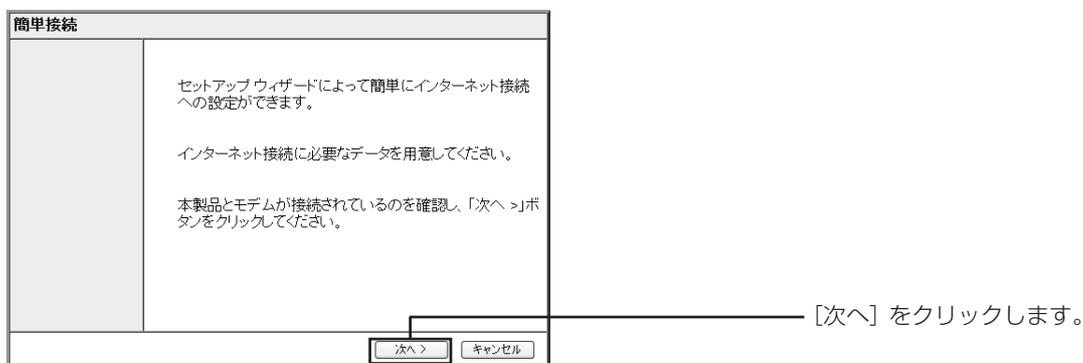
1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorerを起動します。

2　Webブラウザのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、「パスワード」に何も入力しないで［OK］をクリックします。

- 工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したい」（P.89）をご覧ください。

4　設定ユーティリティが起動します。

5　画面左側のメニューから［Wizard］をクリックします。

6　「簡単接続」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

7　「簡単接続・インターネット接続（WAN側設定）」が表示されたら、ご契約のプロバイダの接続タイプを選択し［次へ］をクリックします。

次ページをご覧いただき、該当する接続方法を選択してください。

〈IP 自動取得（DHCP）－ Yahoo! BB、CATV など〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

〈IP 固定設定－固定 IP サービスなど〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

〈PPPoE －フレッツ・ADSL、B フレッツなど〉

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダより「接続ユーザー ID」と「接続パスワード」が割り当てられます。本商品ではプロバイダの情報を設定ユーティリティに登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8　接続タイプに応じて「簡単設定」の各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定を行ってください。

〈「IP 自動取得（DHCP)」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合は、「簡単接続」で設定する項目はありません。P.25 の手順 9 に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
④ DNS サーバ 1	12.34.56.98	ローカルにDNSサーバを設置する場合、またはプロバイダからDNS サーバのIPアドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。

〈「PPPoE」の場合〉
この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

① プロバイダから送付された書類をご覧になり、接続ユーザ名（接続ユーザーID)、接続パスワードを入力します。

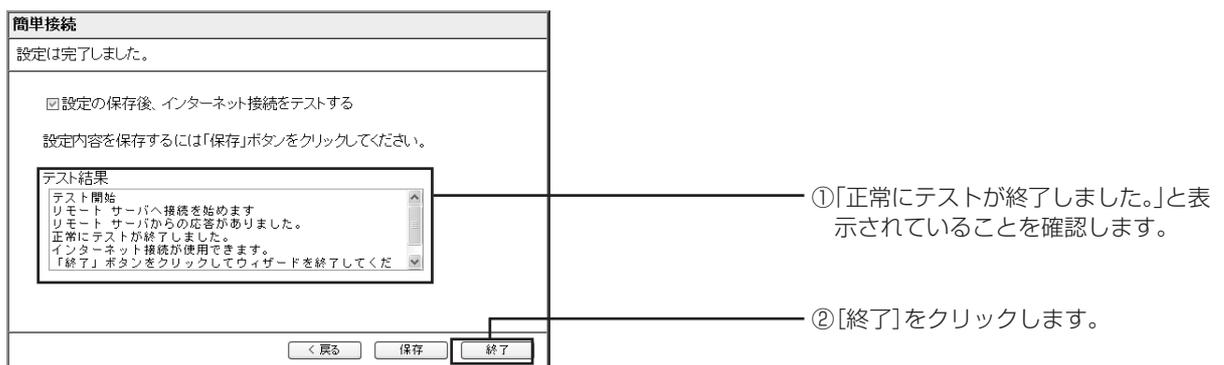
項目名	入力例	説明
①接続ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された「接続ユーザーID」を入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります)。
②接続パスワード	Password02	プロバイダより指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 25 文字までです。 ※「 ” 」および「 ” 」以降に入力した文字は、保存されません。

「接続ユーザ名」は「xxxx@ △△△ . ○○ . □□」、「xxxxx」など入力する書式が異なります。プロバイダから送付された契約書類などを確認し、大文字と小文字を区別して入力してください。

② フレッツ・スクエアのご利用地域「東日本」または「西日本」を選択します。
フレッツ・スクエアを利用しない場合は「利用しない」を選択します。

9　次の画面が表示されたら、[保存] をクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら [OK] をクリックします。

11 しばらくすると、テスト結果が表示されるので、画面を確認して [終了] をクリックします。パソコン、モデムと本商品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました。」と表示されます。

メモ 上画面のように表示されなかった場合は、このページの操作9に戻り、再度テストを行ってください。それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧になり対処してください。

12 手順5の画面に戻ったら [Logout] をクリックして設定ユーティリティを終了します。

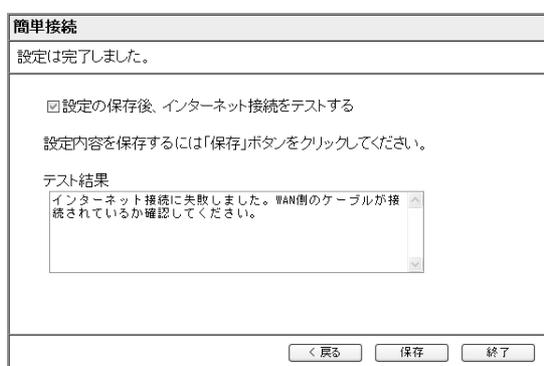
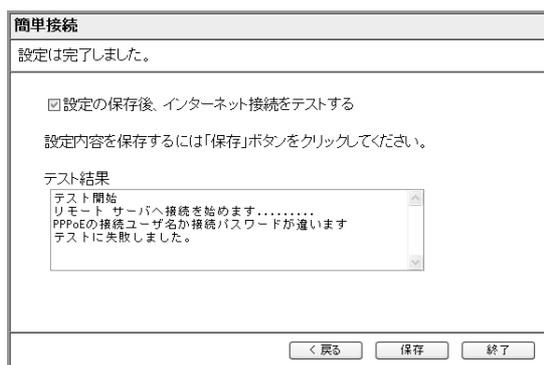
13「ログアウトしてもよろしいですか?」と表示されるので、[はい]を押して終了してください。

- その他の設定項目については、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」(P.28)をご覧ください。本商品のより高度な使用方法については、「PART4 こんなときにはこの設定」(P.70)をご覧ください。
- PPPoE セッションを同時に 2 つ使用する(マルチ PPPoE)場合には、「マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」(P.74)をご覧ください。

■テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度、ウィザードをやり直してください。

下の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

- モデムと回線とが正しく接続されていない
  モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。
- WAN ポートの LAN ケーブルが正しく接続されていない
  WAN ポートに正しくケーブルが差し込まれているかを確認してください。

下の画面が表示された場合、接続ユーザ名か接続パスワードの入力を間違えている可能性があります。プロバイダからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

- 「接続ユーザ名」は「xxxx@△△△.○○.□□」、「xxxxx」など入力する書式が異なります。プロバイダから送付された契約書類などを確認し、大文字と小文字を区別して入力してください。何度試しても接続できない場合は、プロバイダにお問い合わせください。
- モデムに前回の接続情報が記録されている可能性もあります。モデムの電源を一度切り、30分程度経ってから電源を入れ直してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと設定ユーティリティの設定が終わったら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer または Safari を起動します。

2　Web ブラウザのアドレス入力欄に当社のホームページアドレス「http://corega.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

注意　**ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。**

もし、インターネットにつながらなかった場合は、「PART5 トラブルや疑問があったら」（P.84）をご覧ください。

●他のパソコンを接続する場合

本商品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）、「Web ブラウザの設定をしよう」（P.18）、「パソコン、モデムと本商品を接続する」（P.20）をご覧になり、同じ手順でパソコンの設定を行い、本商品の LAN 側ポートとパソコンを LAN ケーブルで接続してください。

PART 3

設定ユーティリティを見てみよう

本商品を使っていて「ルータの機能を使いこなしたい」「ルータの設定項目が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定ユーティリティの使い方

●設定ユーティリティの起動、終了のしかた

設定ユーティリティの起動方法/終了の手順については、本書のPART2の「ネットワークに接続しよう」「本商品の設定をしよう」（P.21）に記載しています。

・設定ユーティリティの起動方法については、「簡単な接続方法」（P.21）の手順１～４をご覧ください。
・設定ユーティリティの終了方法については、「Home～WAN側、LAN側の現在の設定を表示する／設定ユーティリティを終了する」（次ページ）をご覧ください。

●設定ユーティリティの全体構成について

メニュー	内容
Home	WAN側、LAN側の現在の設定を表示する／設定ユーティリティを終了する（次ページ）
Wizard	インターネットに接続する（次ページ）
WAN	インターネット（WAN）側の設定をする(P.30)
LAN	パソコン（LAN）側の設定をする（P.43）
Password	ルータのログイン名・パスワードを変更する（P.43）
Status	現在の接続状態を表示する（P.44）

Advanced

項目	内容
アドバンスドインターネット	ネットワークアプリケーションを利用できるようにする（P.52）
バーチャルサーバ	インターネット上にサーバを公開する（P.54）
ダイナミックDNS	バーチャルサーバにURLでアクセスできるようにする（P.55）
アクセス制限	パソコンのアクセスを制限する（P.57）
セキュリティ	外部からの不正なアクセスを防ぐ（P.60）
PCデータベース	接続しているパソコンを表示する（P.62）
ルーティング	ルーティングテーブルを設定する（P.65）
リモート設定	インターネット上から本商品の設定をする（P.66）
ツール	Pingテストをしたり、DNSを検索する（P.67）
その他各種設定	内蔵時計、PPPoEブリッジ、IPv6パススルなどの設定をする（P.68）

設定画面の各設定

・以降の説明では、表の入力例を使用した場合の画面例を掲載しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
・各設定画面には、［ヘルプ］ボタンがあります。設定内容について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

●Home　～WAN側、LAN側の現在の設定を表示する/設定ユーティリティを終了する～

設定ユーティリティ起動時の画面です。WAN側、LAN側の現在の設定が表示されます。また、設定ユーティリティを終了するときは、必ず「Home」の画面に戻って画面右下の［Logout］をクリックしてください。

●Wizard　～まずインターネットに接続する～

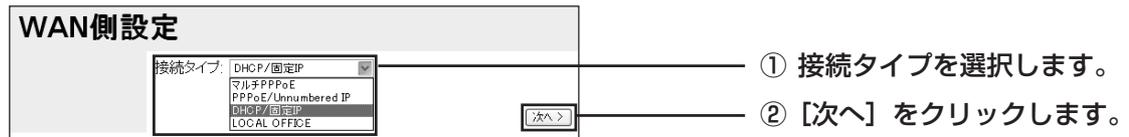
簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」「本商品の設定をしよう」（P.21）をご覧ください。

●WAN（WAN側の設定） 〜インターネット（WAN）側の設定をする〜

WAN側のIPアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレスの設定、PPPoEの設定などインターネットに接続するための基本となる設定を行います。ご契約されたプロバイダの接続タイプに合わせて設定してください。「Wizard」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

通常は「Wizard」から設定を行ってください。

1　画面左側のメニューから[WAN]をクリックします。

2　ご契約のプロバイダの接続タイプを選択し、[次へ]をクリックします。

・DHCPを利用する場合（次ページ）

プロバイダからIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP機能を利用して、IPアドレスが自動的に割り当てられます。Yahoo! BB、CATVなどによる接続を行う場合は、リストから「DHCP/固定IP」を選択してください。

・固定IPアドレスで接続する場合（P.32）

プロバイダから固定IPアドレスを取得している場合に選択します。リストから「DHCP/固定IP」を選択してください。各プロバイダが提供する固定IPアドレスサービスで、Bフレッツやフレッツ·ADSLによる接続を行う場合は、「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・PPPoE接続の場合（P.33）

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダより「接続ユーザーID」と「接続パスワード」が割り当てられます。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・Unnumbered IP機能によるPPPoE接続の場合（P.34）

プロバイダから提供される固定IPアドレス（グローバルIPアドレス）を取得し、PPPoE接続する場合に選択します。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

Unnumbered IP機能とは、プロバイダから提供される固定IPアドレス（グローバルIPアドレス）をパソコンに割り当てて使用することができる機能です。インターネットに公開することにより、Webサーバやメールサーバ、DNSサーバなどを運用することができます。

・マルチPPPoE接続の場合（P.35）

PPPoEセッションを同時に二つ使用する場合に選択します。リストから「マルチPPPoE」を選択してください。

本商品は、1つのブロードバンド回線で、通常インターネットに接続するPPPoE接続（セッション1）とは別に、特定の接続先に他の経路（セッション2）で接続できます。これによりインターネットサービスプロバイダと接続したまま、同時にPPPoEを利用したサービスを利用することができます。

・ローカルルータとして接続する場合（P.42）

本商品をローカルルータとして使用する場合に選択します。リストから「LOCAL OFFICE」を選択してください。

■ DHCP を利用する場合

項目名	説　明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	**IP アドレス自動取得（DHCP）** DHCP 機能を利用して IP アドレスを自動的に取得する場合、プロバイダからIPアドレスを自動的に割り当てられる場合（CATVなど）は、これを選択します。 ※「固定 IP アドレス」は、DHCP を利用するときは選択しません。 ※ 工場出荷時は、「IPアドレス自動取得（DHCP）」が選択されています。
④ DNS	**自動取得** プロバイダよりDNSサーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 **優先 DNS サーバ** プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 入力例:12. 34. 56. 98 ※工場出荷時は、「自動取得」が選択されています。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

■固定 IP アドレスで接続する場合

項目名	説　明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	**固定 IP アドレス** プロバイダから固定 IP アドレスを割り当てられている場合（固定 IP サービスなど）に選択します。 ■IPアドレス：プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。 入力例:12. 34. 56. 78 ■サブネットマスク：プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。 入力例:255. 255. 255. 0 ■ゲートウェイ：プロバイダから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。 入力例:12. 34. 56. 1 ※「IP アドレス自動取得（DHCP)」は、固定 IP アドレスを利用するときは選択しません。
④ DNS	**優先 DNS サーバ** プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 入力例:12. 34. 56. 98 ※「自動取得」は選択できません。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！”＃＄％＆’（）＊＋，-．／：；<＝>？＠［￥］＾＿｛¦｝￣

■ PPPoE 接続の場合

WAN - PPPoE/Unnumbered IP

ログイン　PPPoE接続名: アカウント1 ―― ①
ユーザ名: yname@isp.ne.jp ―― ②
パスワード: ●●●●●●●●●●● ―― ③
オプション　接続方法: トリガ接続 ―― ④
無通信タイマ: 15 分 ―― ⑤
IPアドレス　◎ 通常接続 ―― ⑥
○ Unnumbered IP
DNS　◎ 自動取得 ―― ⑦
○ 優先DNSサーバ: 12 .34 .56 .98 ―― ⑧
＜戻る　保存　キャンセル　ヘルプ

設定が終了したら［保存］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 接続名	アカウント 1	「PPPoE設定」で表示される名称を登録することができます。入力可能な文字は半角英数字記号で1～19文字（全角は9文字）までです。
②ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定されたユーザ名(プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定されたパスワード(プロバイダによって呼び方が異なる場合があります)を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 25 文字までです。
④接続方法	トリガ接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ■常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ■トリガ接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ■手動接続：［Status］から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報 -PPPoE」画面で［接続］をクリックすることで、PPPoE 接続を開始します。
⑤無通信タイマ	15	PPPoE接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分のあいだで指定してください。 ※ 0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥通常接続	－	通常の PPPoE 接続を行う場合に選択します。
⑦自動取得	自動取得	プロバイダより DNS サーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑧優先 DNS サーバ	12.34.56.98	プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は⑦の「自動取得」が選択されています。

半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

■Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続の場合

WAN - PPPoE/Unnumbered IP

ログイン　PPPoE接続名: アカウント1 ①
ユーザ名: yname@isp.ne.jp ②
パスワード: ●●●●●●●●●●● ③
オプション　接続方法: トリガ接続 ④
無通信タイマ: 15 分 ⑤
IPアドレス　○ 通常接続
◎ Unnumbered IP ⑥
IPアドレス 202 . 87 . 250 . 10 ⑦
サブネットマスク 255 . 255 . 255 . 248 ⑧
タイプ: Unnumbered IP ⑨
DNS　○ 自動取得 ⑩
◎ 優先DNSサーバ: 12 . 34 . 56 . 98 ⑪
＜戻る　保存　キャンセル　ヘルプ

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 接続名	アカウント 1	「PPPoE設定」で表示される名称を登録することができます。入力可能な文字は半角英数字記号で1～19文字（全角は9文字）までです。
②ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された「接続ユーザーID」（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定された「接続パスワード」（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 25 文字までです。
④接続方法	トリガ接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ■常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ■トリガ接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ■手動接続：［Status］から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報 -PPPoE」画面で［接続］をクリックすることで、PPPoE 接続を開始します。
⑤無通信タイマ	15	PPPoE接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分のあいだで指定してください。 ※ 0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥ Unnumbered IP	－	プロバイダから複数の WAN 側の IP アドレスを取得し、Unnumbered で PPPoE 接続する場合に選択します。 ※工場出荷時は「通常接続」が選択されています。
⑦ IP アドレス	202.87.250.10	プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。
⑧サブネットマスク	255.255.255.248	プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

項目名	入力例	説　明
⑨タイプ	Unnumbered IP	メニューから、使用するタイプを選択します。 ■**Unnumbered IP**：複数のグローバルIPを使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルータIPとサブネットマスクは、本商品のIPアドレスと同じアドレスがWAN側／LAN側に設定されます。 ・グローバルIPをLAN側（パソコン側）で使用するときは、LAN側（パソコン側）でグローバルIPを固定で設定してください。 ■Unnumbered IP + Private：複数のグローバルIPとプライベートIPを同時に使用することができます。 ・Unnnumberd IP設定に対してルータIPを設定することで本商品のグローバルIPを使ってIPマスカレード機能を使用することができます。 ・グローバルIPをLAN側（パソコン側）で使用する場合は、LAN側（パソコン側）でグローバルIPを固定で設定してください。
⑩自動取得	−	プロバイダよりDNSサーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑪優先DNSサーバ	12.34.56.98	プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※工場出荷時は⑩の「自動取得」が選択されています。

■マルチPPPoE接続の場合

- **PPPoEサービスを提供している回線が、Bフレッツ・ベーシックタイプなどのように、複数の接続に対応している必要があります。**
- **利用のための契約や登録が必要であるサービスがあります。事前にそれらを完了しておいてください。**
- **セッション2の接続での登録済アプリケーション、スペシャルアプリケーションのご利用はできません。その他マルチPPPoE機能利用時の制限事項については、このPARTの「マルチPPPoE機能での制限事項」（P.39）をご覧ください。**

項目名	説　明
①アカウント	PPPoEアカウントを登録します。本商品は5つのPPPoEアカウントを登録することができます。
②セッション	セッション接続を指定します。セッションごとに使用するアカウントを選択することができます。 セッション1およびセッション2は同時に複数のアカウントを選択することはできません。

設定内容を変更するには［次へ >］または［アカウント1～5］をクリックします。（次ページ）

WAN - マルチPPPoE

設定が終了したら［保存］をクリックします。また、接続先設定を保存した後にも必ずクリックして、設定を有効にしてください。

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 設定	アカウント2	PPPoEアカウントを変更することができます。「PPPoE設定」アカウントリストから設定内容を変更したいアカウントを選択し、②～⑮の設定を行います。 ※登録した PPPoE アカウントの設定には、「PPPoE 接続名」の入力欄で、任意の名前を付けることができます。
②接続指定	セッション2	「PPPoE設定」で選択したアカウントで使用するセッションを選択します。「接続先設定」画面で指定した接続先への通信を検出した場合は、セッション2を使用して接続します。それ以外の通信は、セッション1を使用して接続します。 ・**指定なし**：選択したアカウントでPPPoE接続しない場合に選択します。 ・**セッション1**：通常インターネットを利用するためのプロバイダの設定をするときに選択します。 ・**セッション2**：インターネット接続をしたまま、PPPoEを利用したサービスを利用する場合に選択します。⑮の［IPアドレス追加］、［ドメイン追加］、［ポート追加］のいずれかをクリックして、接続先を指定します。
③ PPPoE 接続名	アカウント2	「PPPoE 設定」を任意の名前で登録できます。「PPPoE 設定」アカウントリストから未設定のアカウントを選択した場合、選択したアカウント（アカウント1～5）が自動的に表示されます。
④ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された「接続ユーザーID」（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@” から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

項目名	入力例	説　明
⑤パスワード	Password02	プロバイダより指定された「接続パスワード」(プロバイダによって呼び方が異なる場合があります)を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で25文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。
⑥接続方法	トリガ接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・**常時接続**：常にPPPoE接続した状態になります。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・**トリガ接続**：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的にPPPoE接続を開始します。 ・**手動接続**：[Status]から[詳細]をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で[接続]をクリックすることでPPPoE接続を開始します。
⑦無通信タイマ	15	PPPoE接続で無通信状態になってから、自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分のあいだで設定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑧LAN TYPE	—	セッション2で選択し、NTT東日本が提供するフレッツ・グループアクセス、またはNTT西日本が提供するフレッツ・グループのLAN型払い出しを使用する場合にチェックを付けます。
⑨IPアドレス	12.34.56.77	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたIPアドレスを入力します。
⑩サブネットマスク	255.255.255.0	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたサブネットマスクを入力します。
⑪自動取得	—	プロバイダからDNSサーバを自動設定するような指示があった場合に有効にします。特に指定されていない場合も、「自動取得」を選択します。
⑫マニュアル設定	—	プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定された場合に有効にします。「マニュアル設定」を有効にすると「優先DNSサーバ」と「代替DNSサーバ」の各入力欄が表示されます。
⑬優先DNSサーバ	12.34.56.78	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。
⑭代替DNSサーバ	98.76.54.32	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。 ※指定されたDNSサーバが1つの場合、優先DNSサーバにアドレスを入力してください。3つ以上のDNSサーバアドレスを設定する場合は、3つ目以降を「Advanced」－「その他各種設定」の「バックアップDNSサーバ」に入力してください。

半角英数字記号… 0～9、A～Z、a～z、！” ＃＄％＆’（）＊＋，－．／：；<＝>？＠［￥］＾＿｛¦｝˜

項目名	入力例	説　明
⑮接続先設定	―	セッション２を利用して通信する特定の接続先をIPアドレスもしくはドメイン名で指定します。[IP アドレス追加]、[ドメイン追加]、[ポート追加] をクリックして表示される、それぞれの「接続先設定」画面で接続先を登録します。詳しくはP.40 をご覧ください。 ※「接続指定」でセッション２を選択したときのみ「有効」になります。 ・**[IPアドレス追加]**：特定の接続先をIPアドレスで指定する場合にクリックします。 ・**[ドメイン追加]**：特定の接続先をドメイン名で指定する場合にクリックします。 ・**[ポート追加]**：接続するポートを指定する場合にクリックします。 フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT 西日本）を利用し、Windows でファイルを共有する場合にNetBios を透過する場合は、「NetBios 有効」にチェックを付けます。

- LAN TYPE の設定をすると、リモート設定を利用しなくても、セッション２の WAN 側より本商品を設定することができます。セキュリティ上、パスワードの設定（P.43）およびリモート設定（P.66）で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。
- フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）を利用し、NetBios関連のポート（135、137、138、139、445、3389）は、「NetBios 有効」にチェックを付けることで、設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「NetBios有効」にチェックを付けて保存してください。

・マルチ PPPoE 機能での制限事項

	マルチPPPoE		PPPoE
	セッション1	セッション2	
WAN側設定			
PPPoE	×	×	○
マルチPPPoE	○	○	×
Unnumbered	×	×	○
Unnumbered + Private	×	×	○
接続方法	○	○	○
無通信タイマ	○	○	○
接続先設定>IPアドレス	×	○	×
接続先設定>ドメイン	×	○	×
接続先設定>ポート	×	○	×
接続先設定（NetBIOS有効）※1	×	○	×
フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループ			
端末型払い出し	×	○※5	×
LAN型払い出し（LAN TYPE）	×	○	×
ステータス			
ログ機能	○	○	○
E-Mail機能	○	○	○
Messenger系			
Windows® Messenger4.7	○	×	○
MSN® Messenger4.6	○	×	○
MSN® Messenger4.7以降※2	○	×	○
Quick Time Ver.6.0	○	○	○
アドバンスドインターネット			
登録済アプリケーション	○	×	○
スペシャルアプリケーション	○	×	○
DMZ	○	○	○
バーチャルサーバ			
バーチャルサーバ	○	○	○
ダイナミックDNS			
ダイナミックDNS	○	○	○
アクセス制限			
アクセス制限	○	○	○
スケジュール設定	○	○	○
セキュリティ			
DoS	○	○	○
SPI	○	○	○
URLフィルタ	○	○	○
ICMP	○	○	○
VPN※3	○	○	○
ログ機能			
DoS攻撃	○	○	○
インターネット接続	○	○	○
アクセス制限	○	○	○
PCデータベース			
PCデータベース	○	○	○
ルーティング			
RIP	○	○	○
スタティックルーティング	○	○	○
リモート設定			
リモート接続	○	○	○
その他の機能			
UPnP※4	○※6	○※6	○
MTU手動設定	○	○	○

※ 1 : フレッツグループ / フレッツグループアクセスを利用し、Windows でファイル共有をする場合にチェックを入れます。
※ 2 : Windows XP のみ対応しています。
※ 3 : IPSec は、エンドポントの IP アドレスを指定する通信のみ可能です。
※ 4 : ただし、WAN 側切断処理（WANの切断機能を有効にする）は、Windows XPがゲートウェイアイコンを一つしか持てないためセッション 1 のみ有効です。
※ 5 : DMZ の設定が必要です。
※ 6 : UPnP はセッション 1、2 のいずれかの排他利用になります。

■「接続先設定」画面について

セッション２を利用して通信する場合の接続先を設定します。

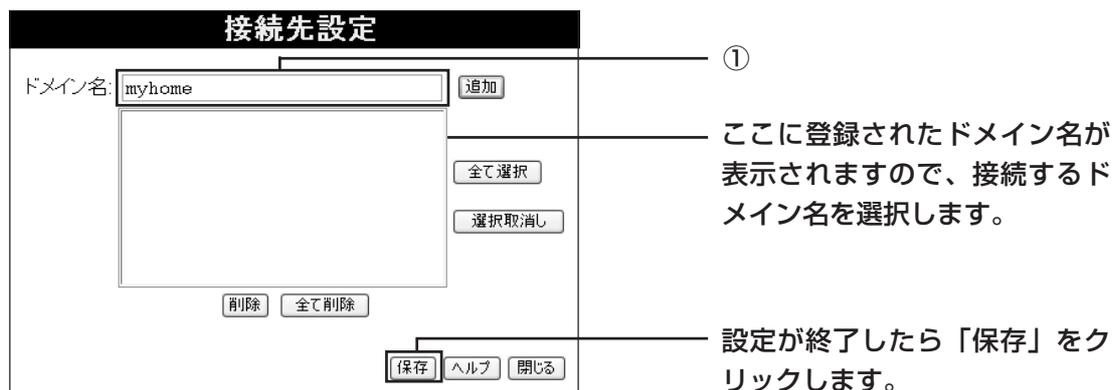
・接続先を IP アドレスで指定する場合

1 「接続先設定」で［IP アドレス追加］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① IP アドレス	10.20.30.40-0	セッション２で通信する接続先を IP アドレスの範囲で指定できます。 セッション２で通信する接続先の IP アドレスの範囲を入力して、［追加］をクリックします。単独で IP アドレスを設定する場合は、終了アドレスに「0」を入力してください。ネットマスク範囲設定と合わせて最大 10 個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されている IP アドレスをクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OS の場合は、「コマンド」キー+クリック
②ネットワーク	172.25.0.0/16	セッション２で通信する接続先を、ネットマスクの範囲で指定できます。 セッション２で通信する接続先のネットワークアドレスとネットマスクを入力して、［追加］をクリックします。IP アドレス範囲指定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リスト表示されているネットマスク範囲をクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OS の場合は、「コマンド」キー+クリック

2 ［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

・接続先をドメイン名で指定する場合

1 「接続先設定」で「ドメイン追加」をクリックします。

項目名	入力例	説　明
①ドメイン名	myhome	セッション２で通信する接続先のドメイン名または文字列を入力し、［追加］をクリックしてリストに登録します。最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているドメイン名をクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー+左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OS の場合は、「コマンド」キー+クリック

2 ［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

・「jp」のみ登録した場合は、「jp」を含むすべてのドメインを登録したことになります。

（例）www.abcd.co.jp
www.abcd-jp.com

最後に「/」を入力すると文字列の終わりを示します。「.jp/」と登録すると、「www.abcd-jp.com/」は該当せず、「www.abcd.co.jp」のみセッション 2 で通信するようになります。

・階層で接続先を登録する場合は以下のように登録してください。
・.jp/　：「jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
・.co.jp/　：「co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
・.xxxx.co.jp/　：「xxxx.co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。

・フレッツ・スクウェアを接続先に登録する場合は「.flets/」を登録してください。

・接続するポートで指定する場合

1 「接続先設定」で ［ポート追加］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
①ポート	3389 - 3389	接続するポート番号を入力し、［追加］をクリックしてリストに登録します。 最大10個まで登録できます。単独でポート番号を設定する場合は、開始ポート、終了ポート間に同じ数字を入力します。（例：35-35）登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているポート番号をクリックし、反転表示されてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー+左クリック※で複数選択も可能です。 ※ Mac OSの場合は、「コマンド」キー+クリック

2 ［閉じる］をクリックして、マルチPPPoEの設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）のサービスを使用する場合、NetBios関連のポート（135、137、138、139、445、3389）は、「NetBios有効」（P.38の⑮）にチェックを付けることで、設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「NetBios有効」にチェックを付けて保存してください。

■ローカルルータとして接続する場合

SOHO内でローカルルータとして使用する場合などに設置します。
例:社内LANとして使用する〈「PART4 こんなときにはこの設定」「社内LANとして使用するには」（P.79）〉

項目名	入力例	説　明
① IPアドレス	12.34.56.78	WAN側のIPアドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	WAN側のサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12. 34. 56. 1	WAN側のデフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。
④優先DNSサーバ	12. 34. 56. 98	ネットワーク管理者から割り当てられたDNSサーバアドレスを入力します。

●LAN(LAN側設定)～パソコン(LAN)側の設定をする～

本商品のローカル（LAN）側の設定を表示します。

1 画面左側のメニューから［LAN］をクリックします。

項目名	工場出荷時	説　明
① IP アドレス	192. 168. 1. 1	本商品のローカル（LAN）側に設定するIPアドレスを入力します。特殊な設定以外は工場出荷時の状態で使用することをおすすめします。
②サブネットマスク	255.255.255. 0	本商品のローカル（LAN）側に設定するサブネットマスクを入力します。
③開始 IP アドレス	192.168. 1. 11	DHCPサーバで接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの開始アドレスを入力します。
④終了 IP アドレス	192. 168. 1. 60	DHCPサーバで接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの終了アドレスを入力します。
⑤ DHCP サーバ	—	チェックを付けるとDHCP 機能が有効になります。 ※工場出荷時の設定値はチェックが付いています。

- ［保存］をクリックすると、本商品に設定が反映されます。本商品の DHCP サーバを利用している場合は、一度ユーティリティ画面を閉じ、パソコンを再起動させてください。パソコンの IP アドレスが設定変更後の LAN の設定に合わせて、改めて割り当てられます。
- 本商品で設定できるのはクラス C のみです。

●Password(パスワード)～ルータのログイン名・パスワードを設定する～

本商品の設定ユーティリティにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティ上、パスワードの設定をおすすめします。パスワードの変更手順については「PART5 トラブルや疑問があったら」「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したい」（P.89）をご覧ください。

- パスワードを忘れると、設定ユーティリティで設定を変更できなくなりますので、ご注意ください。
- なお、Initボタンを使用し、本商品を工場出荷時の状態に戻すことにより、設定したパスワードは初期化されます＜「本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」(P.94)＞。
- ログイン名およびパスワードで空白を設定すると認証を行わずに設定ユーティリティにアクセスすることができます。

●Status(ステータス) ～現在の接続状態を表示する～

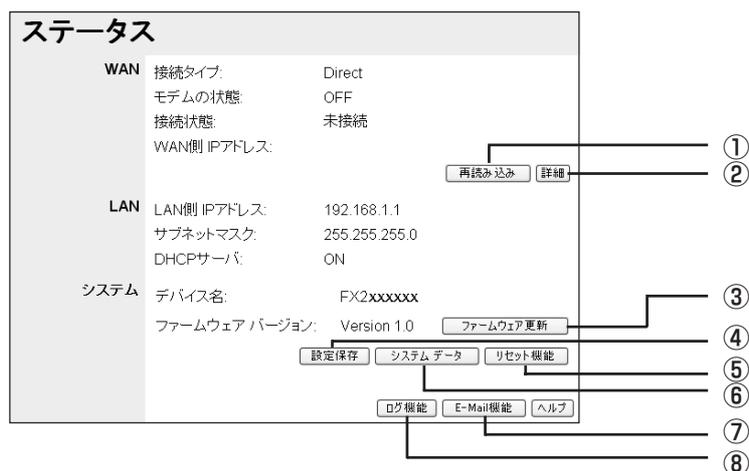
インターネットへの接続状態や本商品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

・DHCP を利用する場合（固定 IP アドレスで接続する場合）

・PPPoE 接続の場合（マルチ PPPoE 接続の場合）

項目名	説　明
①接続タイプ	現在、使用されている接続タイプを表示します。
②モデムの状態	現時点での本商品のWAN ポートとモデムなどの機器との接続状態を表示します。 ■「ON」：接続されています。 ■「OFF」：未接続です。
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ■「接続中」：正常に動作しています。 ■「未接続」：WAN 側のネットワークと通信できていません。
④ WAN 側 IP アドレス	WAN 側の IP アドレスを表示します。 ※ マルチ PPPoE 設定の場合、「WAN 側 IP アドレス」（セッション 1）の下にセッション 2 の IP アドレスも表示されます。
⑤ LAN 側 IP アドレス	LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑥サブネットマスク	LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑦ DHCP サーバ	DHCPサーバ機能の状態を表示します。「ON」か「OFF」のいずれかが表示されます。
⑧デバイス名	デバイス名を表示します。デバイス名は「FX2XXXXXX」で表示されます。「XXXXXX」は本商品のLAN 側のMACアドレスの下６桁の数値です。
⑨ファームウェアバージョン	ファームウェアのバージョンを表示します。

〈ボタンについて〉

項目名	説　明
①再読み込み	最新の接続状態を表示したいときにクリックします。
②詳細	接続状態の詳細を表示したいときにクリックします（本ページ）。
③ファームウェア更新	「ファームウェア更新」画面を表示したいときにクリックします。ファームウェアの更新の方法は、「PART5 トラブルや疑問があったら」「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.90)をご覧ください。
④設定保存	現在の設定内容をバックアップできます。設定変更後に通信できなくなったときなどに保存したバックアップファイルを使用して、設定内容を元に戻します。次の手順で設定をバックアップします。 ①［設定保存］をクリックします。 ②「ファイルのダウンロード」画面の［保存］をクリックします。 ③「名前を付けて保存」画面で保存先とファイル名を指定して［保存］をクリックします。 バックアップファイルを元に戻す方法は、PART5の「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.90）とほぼ同じです。手順4で保存したバックアップファイルを選択してください。
⑤リセット機能	本商品のシステムリブート、または工場出荷時の状態に戻すときにクリックします。詳しくは、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「本商品を再起動したい」(P.93)または「本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」（P.94）をご覧ください。
⑥システムデータ	システム情報を表示したいときにクリックします（P.49）。
⑦E-Mail 機能	E-Mail 機能の設定を行うときにクリックします（P.51）。
⑧ログ機能	ログ機能の設定を行うときにクリックします（P.50）。

■「詳細情報」画面（②）

インターネットへの接続状態の詳細情報が表示されます。

1　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2「ステータス」画面の［詳細］をクリックします。利用する接続方式によって、表示される画面が異なります

・DHCP を利用する場合

項目名	説　明
① MAC アドレス	WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。
⑦リース取得	IP アドレスを取得した日時が表示されます。
⑧残りリース時間	IP アドレスが解放されるまでの残り時間が表示されます。
⑨解放 / 書き換え	■解放：DHCP クライアントが「ON」のときに［解放］を押すと、IP アドレスを解放します。 ■書き換え：DHCP クライアントが「ON」のときに［書き換え］を押すと、IP アドレスを取得します。
⑩再読み込み	最新の情報を表示します。

・固定 IP アドレスで接続する場合

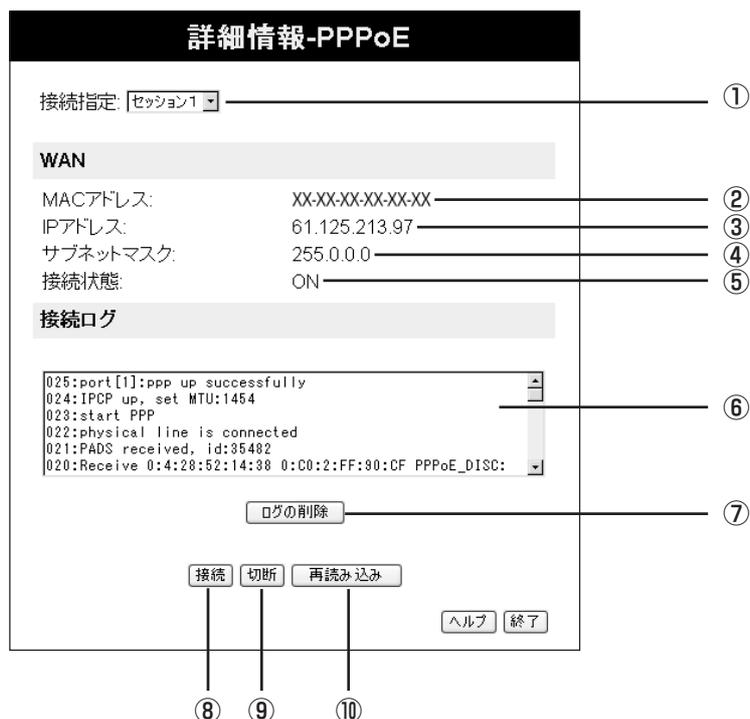
詳細情報

WAN

MACアドレス: XX-XX-XX-XX-XX-XX ①
IPアドレス: 12.34.56.78 ②
サブネットマスク: 255.255.255.0 ③
ゲートウェイ: 12.34.56.1 ④
DNSサーバ: 12.34.56.98 ⑤
DHCPクライアント: OFF ⑥

ヘルプ 終了

項目名	説　明
① MAC アドレス	WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。

・PPPoE 接続の場合

項目名	説　明
①接続指定	詳細を表示するセッションを「セッション 1」と「セッション 2」から選択します。
② MAC アドレス	WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックして表示される画面で確認できます。
③ IP アドレス	WAN 側の IP アドレスが表示されます。
④サブネットマスク	WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
⑤接続状態	現在の接続状態を表示します。 ■「ON」: 接続中です。 ■「OFF」: 未接続です。 ※「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしていて、未接続の場合に［接続］をクリックすると、インターネットに接続できます。［切断］をクリックするとインターネット接続を切断します。
⑥接続ログ	インターネットへの接続ログが表示されます。ログメッセージの詳細は、ヘルプをご覧ください。
⑦ログの削除	表示されているログを削除します。
⑧接続	接続状態が「OFF」のときにインターネットへの接続を行います。「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしているときのみ、使用できます。
⑨切断	接続状態が「ON」のときにインターネットへの接続を切断します。「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしているときのみ、使用できます。「常時接続」に設定している場合は、いったん接続を切断されますが、すぐに再接続されます。
⑩再読み込み	最新のログを表示します。

・LOCAL OFFICE 接続の場合

詳細情報

WAN

MACアドレス: XX-XX-XX-XX-XX-XX ①
IPアドレス: 12.34.56.78 ②
サブネットマスク: 255.255.255.0 ③
ゲートウェイ: 12.34.56.1 ④
DNSサーバ: 12.34.56.98 ⑤
DHCPクライアント: OFF ⑥

ヘルプ 終了

項目名	説　明
① MAC アドレス	WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。

■システムデータ

［システムデータ］をクリックすると、本商品のシステム、WAN、LANの設定状況を画面で確認することができます。

■「ログ機能」画面

本商品では、インターネット接続やアクセス制限などのログを残すことができます。

1 画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2「ステータス」画面の［ログ機能］をクリックします。

項目名	説　明
①インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログを残します。[ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。[削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
②アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。[ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③DoS（Denial of Service）アタック検出ログ	チェックを付けるとDoS（Denial of Service）攻撃を検出したときにログを残します。[ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。[削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。

3 上記項目の設定後、[保存］をクリックして設定を反映します。

■「E-Mail 機能」画面

本商品には、E-Mail によるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することで DoS（Denial of Service）攻撃が検出された時に管理者に対してログメールで通知することも可能です。

1　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2「ステータス」画面の［E-Mail 機能］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① DoS アタック 検出時に ログを送信する	－	チェックを付けるとDosアタックを検出したときに、ログをメールで送信します。
②インターネット 接続ログ	－	チェックを付けると、インターネット接続に関してのログを、④の「送信」で設定した送信方法でメールを送信します。
③アクセス制限ログ	－	チェックを付けると、アクセス制限機能によってブロックされた情報を記録したログを、④の「送信」で設定した送信方法でメールを送信します。
④送信	－	ログ情報を送信するタイミングを選択します。ログが一杯になったときに送信する場合は「a」を選択します。曜日と時間を決めて送信する場合は「b」を選択して曜日と時間を指定します。 ※ログ情報がいっぱいになると、設定よりも前に送信されます。
⑤送信先 E-Mail アドレス	corega@xxx.ne.jp	ログ情報の送信先（E-Mail アドレス）を設定します。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で 32 文字までです。
⑥件名	logs info	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 29 文字までです。 ※件名に全角文字を入れた場合、受信側で文字化けする場合があります。
⑦送信用（SMTP） サーバ	12. 34. 56. 1	プロバイダから指定されたメール送信用（SMTP）サーバのホスト名か IP アドレスを設定します。 ※ホスト名を指定する場合、入力可能な文字は、半角英数字記号で 50 文字までです。
⑧ポート番号	25	送信用（SMTP）サーバに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ポート番号は1～65534の半角数字を入力してください。 ※工場出荷時のポート番号は「25」になっています。

半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

3　上記項目の設定後、［保存］をクリックして設定を反映します。

●Advanced　～より高度な機能を設定する～

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定やセキュリティの設定、ポート開放（バーチャルサーバ）の設定など、本商品のより高度な機能の設定ができます。

■アドバンスドインターネット　～ネットワークアプリケーションを利用できるようにする～

ネットワークゲームなど、ファイアウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際のポート設定を行います。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力/出力ポートが設定してあります。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「アドバンスドインターネット」をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	説　明
①使用アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力/出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
②接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」（P.62）で登録してください。
③スペシャルアプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、［スペシャルアプリケーション］をクリックして、新しく設定します（次ページ）。
④ PPPoE 設定	DMZ設定する場合のアカウント（接続先）を選択します。マルチPPPoE接続の場合のみ表示されます。
⑤ DMZ	DMZ 機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャルアプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合には DMZ 機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZ を使用する」にチェックを入れます。 ※ DMZ を設定したパソコンは、本商品のセキュリティ機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にして　ご使用ください。 ※ マルチ PPPoE 接続の場合は、アカウントごとに設定することができます。 ※解除するときはチェックを外します。

2　上記項目の設定後、［保存］をクリックして設定を反映します。

・「スペシャルアプリケーション」画面

「アドバンスドインターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合には、個別に設定ができます。

1 画面左側のメニューから［Advanced］ー「アドバンスドインターネット」をクリックします。

2「アドバンスドインターネット」画面で［スペシャルアプリケーション］をクリックします。

設定が終了したら［保存］をクリックします。

項目名		入力例	説　明
①チェックボックス		ー	利用するアプリケーションにチェックを入れます。
②名称		dialpad	ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※入力可能な文字数は、半角英数字記号で12文字までです。大文字は小文字に自動的に変換されます。
③入力ポート番号	タイプ	udp	入力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始〜終了	51200〜51201	パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1〜65534の半角数字を入力してください。
④出力ポート番号	タイプ	udp	出力ポートのプロトコルタイプを選択します。
	開始〜終了	51200〜51201	パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1〜65534の半角数字を入力してください。

半角英数字記号… 0〜9、a〜z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

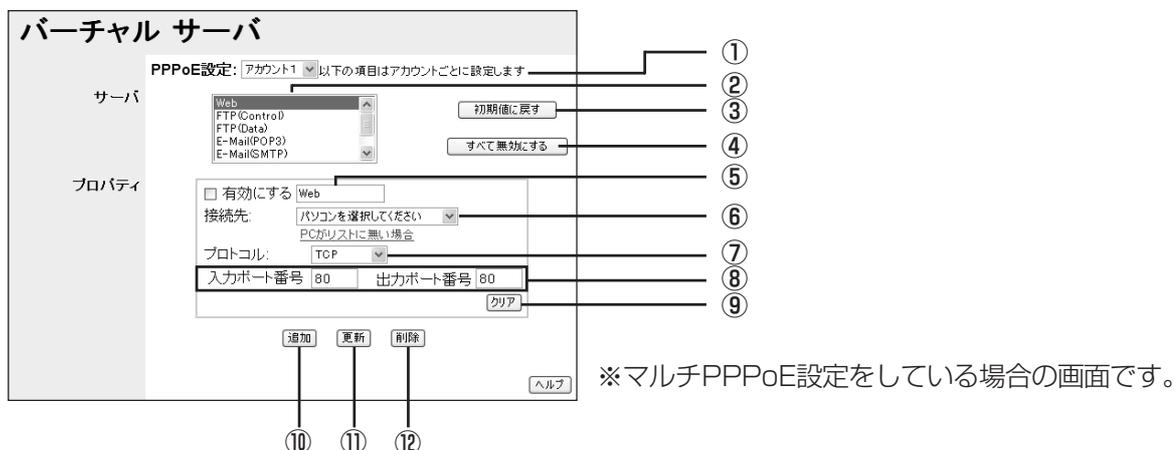
- **アプリケーションのポートなどの設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。**
- **スペシャルアプリケーションを使用できるパソコンは、それぞれ1台のみです。**

3 上記項目の設定後、［保存］をクリックして設定を反映します。

■バーチャルサーバ　～インターネット上にサーバを公開する～

インターネット（WAN側）から本商品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバを公開できます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャルサーバ」をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 設定	アカウント 1	バーチャルサーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②サーバ	Web	利用したいサーバを選択します。
③初期値に戻す	―	選択したバーチャルサーバの設定を初期設定に戻します。
④すべて無効にする	―	一覧に表示されているすべてのバーチャルサーバを無効にします。
⑤有効にする	Web	選択したバーチャルサーバにチェックを付けて名称を任意で入力します。 ⑩の［追加］をクリックすると新しくサーバを追加します。 ⑪の［更新］をクリックすると、内容が変更されます。 ※工場出荷時は「無効」になっています（チェックは入っていません）。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 16 文字までです。
⑥接続先	―	バーチャルサーバにするパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「ＰＣ データベース」（P.62）で登録してください。
⑦プロトコル	TCP	開放するプロトコルのタイプを選択します。
⑧入力/出力ポート番号	80/80	サーバソフトが使用するポート番号（入力ポート番号）とインターネット側からサーバに使用するためのポート番号（出力ポート番号）を入力します。通常は同一のポート番号になります。 ※ポート番号には 1～65534 の半角数字を入力してください。
⑨クリア	―	プロパティに入力した内容をクリアします。
⑩追加	―	設定したバーチャルサーバを②のサーバ一覧に追加します。 ※登録済みの他のサーバ名から名称を変更する必要があります。
⑪更新	―	選択したバーチャルサーバの設定内容を更新します。
⑫削除	―	選択したバーチャルサーバを削除します。

半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

メモ　登録可能なサーバ数は 40 です。

■ダイナミックDNS（DDNS）　～バーチャルサーバにURLでアクセスできるようにする～

インターネット上からIPアドレスではなくURLを指定してLAN内のバーチャル サーバに接続できるようにします。ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスでも、LAN内のバーチャルサーバにアクセスできるようになります。
ダイナミックDNSは、以下の手順で設定します。

1 無料または有料サービスを提供しているダイナミックDNSサイトで登録手続きをします。本商品から登録することができます。
ここでは、例としてDynDNSに登録しています。登録が完了すると、ユーザ登録確認メールが、E-Mailで送信されます。

2 画面左側のメニューから［Advanced］－「ダイナミックDNS」をクリックし、登録したDDNSユーザ名とパスワード、使用したいドメイン名を入力して［保存］をクリックします。

※PPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 設定	アカウント 1	ダイナミックDNS機能を利用してバーチャルサーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチPPPoE接続の場合のみ表示されます。
② DDNS 登録サイト	ー	ダイナミックＤＮＳは有料（IvyNetwork）と無料（DynDNS）の２つがリンクされています。ダイナミックDNSサイトとしてこちらで登録できます。
③ DDNS サービス	ー	登録したダイナミックDNSのサービス名を選択します。
④ユーザ名	corega	②のダイナミックDNSサイトで登録したユーザ名を入力してください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で15文字までです。
⑤パスワード	Password 02	②のダイナミックDNSサイトで登録したパスワードを入力してください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で15文字です。入力したパスワードは画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないようにご注意ください。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！”＃＄％＆’（）*＋，-．/：；<＝>？@［￥］^＿{¦}˜

項目名	入力例	説　明
⑥ドメイン名	corega	②のダイナミックDNSサイトで登録した希望のドメイン名を入力してください。 ※一度取得したドメイン名は本商品からの変更はできません。ドメイン名を変更する必要があれば、ダイナミックDNSサイトでアカウントを終了し、その後新たに登録をしなおしてください。 ※使用可能な文字は、半角英数字記号で、左側の入力欄は24文字以内、中央の入力欄は16文字以内、右側の入力欄は4文字以内で入力してください。
⑦DDNSステータス	ー	②のダイナミックDNSサイトにあるダイナミックDNSサーバからのメッセージを表示します。

半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

3 設定を保存すると、本商品はその時点で使用しているIPアドレスを自動的にダイナミックDNSサイトに記録します。「DDNSステータス」欄で、希望のドメイン名が取得できたかどうか、確認してください。　設定したダイナミックDNSを使用してバーチャルサーバなどへの接続が可能になります。

ダイナミックDNSサイトへの登録は、お客様の自己責任で行ってください。登録に関して弊社では一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■アクセス制限　～パソコンのアクセスを制限する～

ローカル（LAN）側に接続されているパソコンからインターネット（WAN）側へのアクセスを制御します。アクセス制限は、グループごとに設定できます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「アクセス制限」をクリックします。

※PPPoE設定をしている場合の画面です。

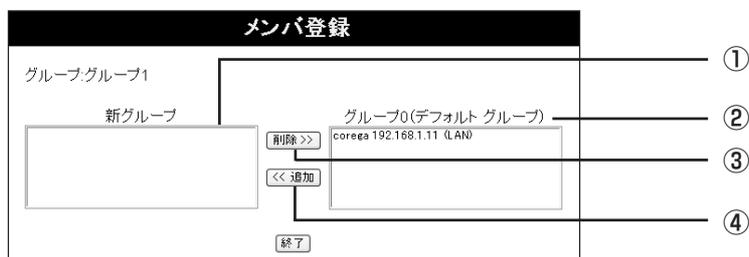
項目名	入力例	説　明
①グループ選択	グループ 0	アクセス制限をするグループを選択します。 ※工場出荷時は「グループ 0」になっています。
②メンバ登録	ー	グループ 0 以外のグループのメンバを編集できます（次ページ）。
③ PPPoE 設定	アカウント 1	インターネット側（WAN 側）へアクセスするアカウントを選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
④アクセス制限	なし	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ■「なし」: アクセスは制限されません。 ■「全てのサービス」: 全てのサービスがアクセス制限されます。 ■「選択したサービス」:「サービス」で選択したサービスのみ、アクセス制限されます。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑤スケジュール設定	ー	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます（次ページ）。
⑥スケジュール	なし	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑦サービスの編集	ー	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます（P.59）。
⑧サービス	ー	アクセス制限をしたいサービスを選択します。
⑨ログ情報	ー	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑩ログの削除	ー	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

2　上記項目の設定後、［保存］をクリックして、設定を反映します。

・「メンバ登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1 画面左側のメニューから［Advanced］ー「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で「グループ選択」のメニューから「グループ0」以外のグループを選択し、［メンバ登録］をクリックします。

項目名	説　明
①新グループ	選択したグループのメンバを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②グループ0	デフォルトメンバを表示します。本商品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。
③削除	選択したメンバを新グループから削除します。
④追加	選択したメンバを新グループに追加します。

3 上記項目の設定後、［終了］をクリックして、設定を反映します。

・グループ0に表示されているパソコンは、本商品が認識しているパソコンの一覧ですので、新グループに追加しても、一覧から削除されません。また、1つのパソコンを異なるグループ（グループ0を除く）に重複して登録することはできません。

・登録可能なパソコンは最大50台です。

・「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定できます。

1 画面左側のメニューから［Advanced］ー「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で［スケジュール設定］をクリックします。

曜日	曜日ごとにスケジュールを設定します。
スケジュール1、2	スケジュール2を使用しない場合は、空白で設定してください。
開始	24時間表記で開始時間を入力してください。
終了	24時間表記で開始時間を入力してください。

例: 月曜日＝深夜0:00～早朝6:00、およびお昼の12:00～13:00までアクセス制限をする場合
日曜日＝1日中制限する場合

3 上記項目を設定後、［保存］をクリックすると設定が反映されます。

・「サービス」画面

アクセス制限をするサービスの追加、削除を行います。

1 画面左側のメニューから［Advanced］ー「アクセス制限」をクリックします。

2「アクセス制限」画面で［サービスの編集］をクリックします

項目名	入力例	説　明
①登録済みサービス	ー	登録済みのサービスの一覧を表示します。削除したいサービスを選択してください。［削除］をクリックすると、選択したサービスが削除されます。 ※工場出荷時に登録されているサービスは削除できません。
②サービス名	HTTP	追加登録するサービス名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で 12 文字までです。 ※ ①の画面で表示される際は、サービス名の先頭に「*」が付きます。
③タイプ	TCP	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始 / 終了 ポート番号	80/80	サービスが使用するポート番号の開始～終了を入力します。
⑤ ICMP タイプ	ー	「タイプ」で「ICMP」を選択した場合に入力します。

半角英数字記号… 0～9、a～z、！” ＃ ＄ ％ ＆ ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

・アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。
入力例の場合、HTTP は 80 番ポートなので、開始ポート番号に「80」、終了ポート番号に「80」と入力します。

・登録済みのサービス数は 40 です。サービスの追加可能数は 30 です。

3 各設定項目を入力後、［追加］をクリックすると、「登録済みサービス」にサービスが追加されます。

■セキュリティ　～外部からの不正なアクセスを防ぐ～

本商品のセキュリティ機能の設定を行います。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「セキュリティ」をクリックします。

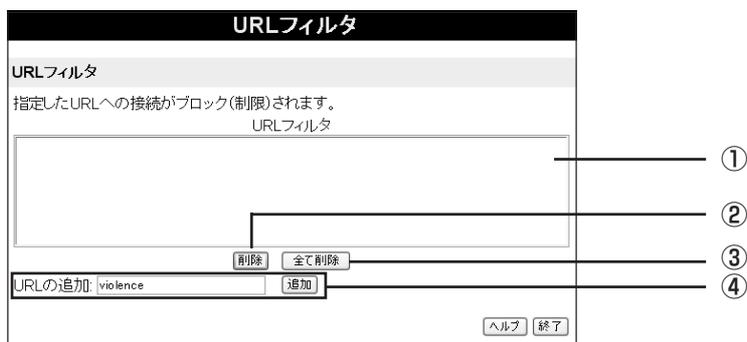
※PPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	説　明
① PPPoE 設定	セキュリティ機能を設定するアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DoS（Denial of Service）ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS（Denial of Service）攻撃への防御ができます。 ※ 工場出荷時は「有効」になっています。通常はこのまま使用することをおすすめします。
③しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。 ※工場出荷時は「高」になっています。
④ URL フィルタを使用する	有効にすると、指定した URL への接続を制限します。 ※ 工場出荷時は「有効」になっていますが、「URL フィルタの設定」には何も登録されていないため、URL のフィルタリングはされません。
⑤ URL フィルタの設定	「URL フィルタ」画面が表示されます（次ページ）。接続制限をするURLを設定します。
⑥ ICMP に返答する	本商品にpingコマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「無効（返答しない）」になっています。
⑦ IPsec を許可する	IPsec を使用した VPN（Virtual Private Networking）の通信を可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（IPsec のパススルが可能）」になっています。 ※許可可能な VPN クライアントは 1 台のみです。
⑧ PPTP を許可する	PPTP を使用した VPN（Virtual Private Networking）の通信を可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（PPTP のパススルが可能）」になっています。 ※許可可能な VPN クライアントは 1 台のみです。
⑨L2TP を許可する	L2TP を使用した VPN（Virtual Private Networking）の通信を可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（L2TP のパススルが可能）」になっています。 ※許可可能な VPN クライアントは 1 台のみです。

2　上記項目の設定後、［保存］をクリックして、設定を反映します。

・「URL フィルタ」画面

1 画面左側のメニューから［Advanced］－「セキュリティ」をクリックします。

2「セキュリティ」画面で［URL フィルタの設定］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① URL フィルタリスト	ー	接続制限をする URL のリストが表示されます。
②削除	ー	選択した URL を削除します。
③全て削除	ー	URL フィルタリスト（①）に登録されている URL をすべて削除します。
④ URL の追加	violence	接続制限をしたい URL を入力し、［追加］をクリックすると、URL フィルタリスト（①）に URL が追加されます。文字列（例：violence）を入力すると、その文字列を含む URL がアクセス制限されます。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で 72 文字までです。

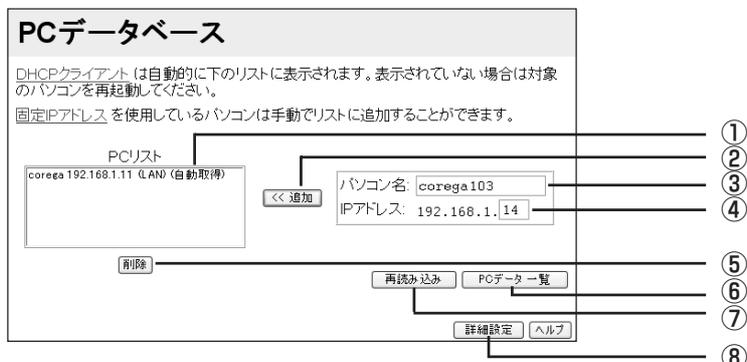
半角英数字記号… 0～9、a～z、 - . @

・登録可能な URL の数は 10 です。
・URL を登録した場合、「http://」は省略されて URL フィルタリストに表示されます。

3 上記項目の設定後、［終了］をクリックして、「URL フィルタ」画面を終了します。

■ PC データベース　～接続しているパソコンを表示する～

本商品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN 上のパソコンや固定 IP アドレスの情報を管理できます。「DHCP クライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。固定IPアドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。バーチャル サーバや DMZ などを固定 IP アドレスのパソコンで設定する際は、かならず PC リストに手動で登録してください。

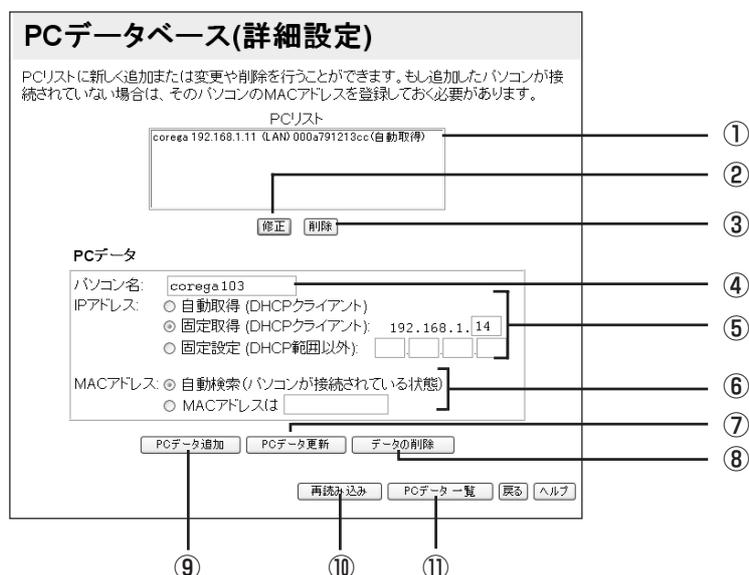
1　画面左側のメニューから［Advanced］－「PC データベース」をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① PC リスト	―	現在､接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※ DHCP クライアントは、自動的に PC リストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。固定IPアドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※ パソコンを本商品から外して［再読み込み］をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本商品をリセットするか電源を入れ直してください。
②追加	―	パソコン名と IP アドレスを入力したパソコンを PC リストに追加します。
③パソコン名	corega103	PCリストに追加するパソコン名を入力します（任意の名前）。 ※ 入力可能な文字は半角英数字記号で 15 文字までです。
④ IP アドレス	192.168.1.14	PCリストに追加するパソコンのIPアドレスを入力します。
⑤削除	―	選択したパソコンを PC リストから削除します。
⑥ PC データ一覧	―	PCデータベースの詳細を表示したいときにクリックします。
⑦再読み込み	―	PC リストの表示を更新したいときにクリックします。
⑧詳細設定	―	PC データの詳細設定を行います（次ページ）。

半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

・「PC データベース（詳細設定)」画面

接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「PC データベース」をクリックします。

2「PC データベース」画面で［詳細設定］をクリックします。

項目名		入力例	説　明
① PC リスト		―	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※パソコンを本商品から外して［再読み込み］をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本商品をリセットするか電源を入れ直してください。
②修正		―	PC リストから設定を変更したいパソコンを選択し［修正］をクリックするとPCデータにパソコンのデータが表示されます。
③削除		―	PC リストから削除したいパソコンを選択し［削除］をクリックすると PC リストからパソコンが削除されます。
④パソコン名		corega103	パソコンのコンピュータ名を入力します（任意の名前）。 ※入力可能な文字は半角英数字記号で 15 文字までです。
⑤IPアドレス	自動取得（DHCP クライアント）	―	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IP アドレスは本商品が自動的に割り当てます。
	固定取得（DHCP クライアント）	固定取得 192. 168. 1. 14	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IP アドレスは本商品が自動的に割り当てますが、ここで指定したIP アドレスが割り当てられます。 ※割り振れるIPアドレスは「LAN（LAN側設定)」(P.43）で設定しているIP アドレスの範囲内になります。
	固定設定（DHCP 範囲以外）	―	パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択します。

半角英数字記号… 0～9、a～z、!”#＄%&’()*+,-./:;<=>?@[￥]^_{¦}˜

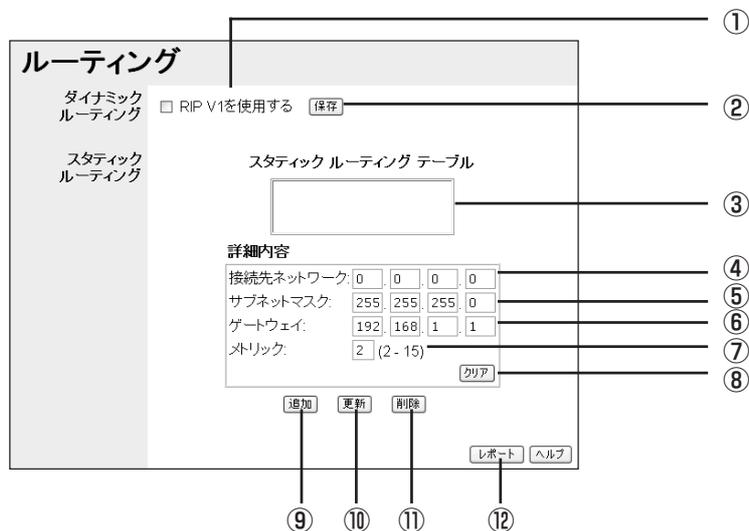
項目名		入力例	説　明
⑥MACアドレス	自動検索	―	パソコンがLANに接続されている場合に、本商品が自動的にパソコンのMACアドレスを検索する設定にする場合に選択します。
	MACアドレス	―	パソコンのMACアドレスを直接設定する場合に選択して、MACアドレスを入力します。
⑦PCデータ更新		―	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑧データの削除		―	選択したパソコンのデータベースを削除します。
⑨PCデータ追加		―	PCデータを入力したパソコンをPCリストに追加します。
⑩再読み込み		―	PCデータベースの表示を更新します。
⑪PCデーター覧		―	エントリー可能なPCデータを一覧表示します。

「PCデーター覧」に登録可能なパソコン数は50です。

■ルーティング　～ルーティングテーブルを設定する～

LAN 上に他のルータまたはゲートウェイがある場合は、ルーティングの設定が必要です。通常は、RIPを使用することをおすすめします。

スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「ルーティング」をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① RIP V1 を使用する	ー	本商品で RIP を有効にするかどうかを選択します。本商品では RIP V1 のみをサポートしています。 ※工場出荷時は「無効」になっています。 ※LOCAL OFFICEの場合は表示されません（使用できません）。
②保存	ー	RIPの設定を保存します（スタティックルーティングテーブルには変更はありません）。
③スタティック ルーティングテーブル	ー	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先ネットワーク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークの IP アドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	255.255.255.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
⑥ゲートウェイ	192.168.1.1	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先と通信するために使用するゲートウェイのIPアドレスを入力します。
⑦メトリック	2	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルータの数です。2 ～ 15 の間で設定してください。
⑧クリア	ー	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑨追加		「詳細内容」欄の入力内容をスタティックルーティングテーブルに追加します。
⑩更新	ー	「詳細内容」欄の設定内容でスタティックルーティングテーブルを更新します。
⑪削除	ー	選択したスタティック ルーティングテーブルを削除します。
⑫レポート	ー	設定されているすべてのスタティック ルーティングテーブルのリストを表示します。

- **本商品の RIP 機能は、LAN 側のみとなります。**
- **登録可能なルーティングテーブル数は 20 です。**

■リモート設定　～インターネット上から本商品の設定をする～

本商品をインターネット経由で設定できるようにします。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「リモート設定」をクリックします。

※PPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説　明
① PPPoE 設定	アカウント 1	リモート設定を行うアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②リモート設定を使用する	ー	チェックを付けるとインターネット側（WAN側）から本商品の設定を可能にします。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
③ポート番号	8080	インターネット側から本商品にアクセスする際のポート番号を指定します。1 ～ 65534 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は「8080」になっています。
④本製品に接続するための IP アドレス	ー	インターネット側（WAN側）から本商品の設定をする際に指定する IP アドレス（プロバイダによって割り当てられたもの）が表示されます。 ※本商品に接続するための IP アドレスは、本商品の WAN 側 IP アドレスになります。

メモ　インターネット側（WAN 側）から接続する際は、下記のように IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。

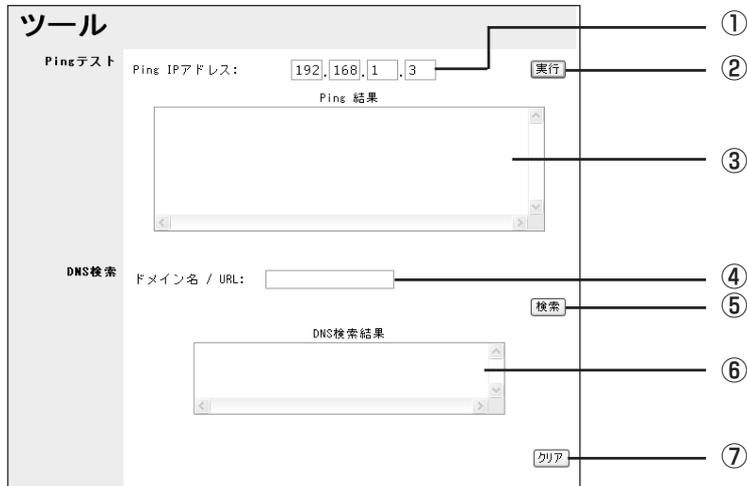
http:// 本商品に接続するための IP アドレス:ポート番号

2　上記項目を設定後、［保存］をクリックすると設定が反映されます。

- ダイナミック IP アドレスを使用している場合、本商品に接続するための IP アドレスが常に変わってしまいます。接続する前に、本商品の WAN 側 IP アドレスを確認してください。
- 「リモート設定を使用する」を有効に設定した場合、第三者からの不正アクセスやインターネット上への情報の漏洩などが考えられます。リモート設定を使用していないときは、「無効」に設定することをおすすめします。

■ツール　～Ping テストをしたり、DNS を検索をする～

任意のパソコンに Ping を使ってテストをすることができます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「ツール」をクリックします。

項目名	入力例	説　明
① Ping IP アドレス	192.168.1.3	正常に動作しているか、接続されているかを知りたいパソコンの IP アドレスをここに入力します。
②実行	ー	①に入力したIPアドレスを持つパソコンへ、Pingテストを実行します。※
③ Ping 結果	ー	①に入力した IP アドレスを持つパソコンが正常に動作（または接続）している場合は、ここにテスト結果の一覧が表示されます。
④ドメイン名 /URL	ー	インターネット上で検索したいドメイン名（またはURL）を入力します。
⑤検索	ー	④に入力したドメイン名（またはURL）の検索を開始します。
⑥ DNS 検索結果	ー	検索結果がここに表示されます。
⑦クリア	ー	入力欄に入力した文字を無効にします。

※ご使用のパソコンのセキュリティによっては、Pingを受け付けない場合があります。

■その他各種設定　～内蔵時計、PPPoE ブリッジ、IPv6 パススルなどの設定をする～

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「その他各種設定」をクリックします。

設定が終了したら［保存］をクリックします。

項目名	入力例	説　明
①時間設定	ー	本商品の内蔵時間を設定します。 ・自動設定:NTPサーバに接続し、自動的に時刻の設定を行います。 ・手動設定:手動で設定するときに選択します。
② PPPoE ブリッジ		チェックを入れるとダイレクトPPPoEを使用することができます。
③ IPv6 パススル	ー	チェックを入れると IPv6 パススルが有効になり、IPv6 プロトコルで通信ができます。 ※ネットワーク環境がIPv6に対応している必要があります。
④ UPnP を有効にする	ー	UPnP（Universal Plug and Play）機能によって自動的に LAN に接続された装置を検出し認識します。UPnP 機能は、Windows XP、および Windows Me にてご使用になれます。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示される内容が異なります（次ページ）。
⑤ UPnP を使って本製品の設定を変更する	ー	チェックを付けると、UPnP 機能を使用して、本商品の設定を変更することができます。チェックを外すと、UPnP機能を使用した本商品の設定変更はできなくなります。 ※マルチ PPPoE 接続時は、表示される内容が異なります（次ページ）。
⑥ WAN の切断機能を有効にする	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用してWAN（インターネット）を切断することができます。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
⑦ MTU を変更する	1454	MTU の値を変更します。PPPoE 接続の場合のみ、設定できます。通常はリモートサーバから自動的に設定されます。プロバイダから指示があったときのみ変更してください。1 ～ 1492 の間で設定してください。フレッツ･ADSL に接続した場合には、自動的に「1454」に設定されます。 ※工場出荷時の設定値は「1454」です。
⑧バックアップ DNS	12. 34. 56. 99	DNS（ドメインネーム サーバ）の IP アドレスを入力します。優先DNSサーバが利用できない場合に、ここで入力したDNSサーバが使用されます。プロバイダに指定された場合に入力してください。指定されない場合は空欄にしてください。

マルチ PPPoE 接続時は、以下の画面のように表示されます。

項目名	入力例	説　明
①アプリケーションで WAN IP を選択する	ー	アプリケーションでWAN IPを使用する場合にチェックをつけます。
② WAN 側 IP のセッションを選択する	ー	チェックをつけるとUPnPで使用するセッションを設定することができます。
③ PPPoE 設定	アカウント 1	UPnP、MTU、バックアップ DNS を設定するアカウント（接続先）を選択します。 ※マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。
④ UPnP を使用する	ー	チェックを付けると UPnP 機能を使用できます。 ■セッション 1、2 の両方にチェックを入れた場合、セッション 1 のみ有効になります。 ■セッション2のみUPnP機能を使用したい場合、セッション1のアカウントに対してチェックを外します。この場合セッション 2 の接続先設定も必要になります。 ※マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。

- **マルチ PPPoE 接続時は、項目名の「④UPnP を使用する」以降の設定項目をアカウントごとに設定することができます。**
- **マルチ PPPoE 画面のその他の項目の説明は、前ページと同じです。**

2 上記項目の設定後、［保存］をクリックして、設定を反映します。

PART 4

こんなときにはこの設定

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットやポートを開放してサーバの公開をするなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本商品の設定を変更する必要があります。このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバとデータの送受信を行うポートを、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本商品に設定する必要があります。

回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本商品の設定が行われます。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1　設定をするアカウントを選択します［Advanced］「その他各種設定」「UPnP」で（P.68）、「UPnPを有効にする」にチェックを入れます。

- **Windows にて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windows の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft にお問い合わせください。**
- **UPnP がサポートされている OS は、Windows XP です。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、設定ユーティリティで次の設定を行います。

1　画面左側のメニューから「Advanced」－「バーチャルサーバ」をクリックします。

2　プロパティの「有効にする」にチェックを入れます。

3　任意のサーバ名を入力します。

4　「接続先」のパソコンを選択します。

5　プロトコル、ポート番号を使用するサーバに合わせて入力します。

6　［追加］をクリックします。

7　「サーバ」の画面内に 3 で入力したサーバ名があることを確認してください。

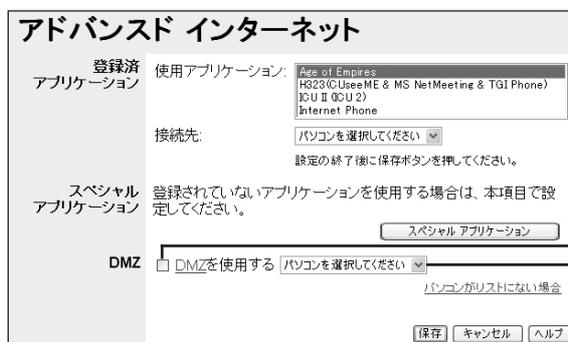
・ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。
・詳細は「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「バーチャルサーバ」（P.54）をご覧ください。

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ 機能を使います。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1　画面左側のメニューから「Advanced」－「アドバンスドインターネット」（P.52）をクリックします。

2　「DMZ を使用する」にチェックを入れます。

3　ネットワークするパソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN Messenger、Windows Messengerを利用する場合の設定を説明しています。本商品では、Microsoft Windows Messenger（Ver.4.7以降）、MSN Messenger（Ver.4.6以降）およびNetMeetingに対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

1　画面左側のメニューから「Advanced」－「アドバンスドインターネット」（P.52）をクリックして、画面を開きます。

2　「登録済みアプリケーション」の「使用アプリケーション」で「H323（CUsee ME&MS NetMeeting)」を選択します。

3　接続先のパソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

上記設定をしても接続できない場合はDMZ機能を使います。「Advanced」－「アドバンスドインターネット」（P.52）で「DMZを使用する」にチェックを入れ、NetMeetingを使用するパソコンを選択してください。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●Windows Messenger（Ver.4.7以降）、MSN Messenger（Ver.6.2以降）

本商品はUPnPに対応しているので、Windows Messenger、MSN Messengerを利用する際は、自動的に本商品の設定が行われます。

1　画面左側のメニューから「Advanced」－「その他各種設定」をクリックして、画面を開きます。

2　「UPnPを有効にする」にチェックを入れます。

対応OSはWindows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。

3　［保存］をクリックします。

詳細は「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「その他各種設定」（P.68）をご覧ください。

外部にサーバを公開するには

●バーチャルサーバを使用する

バーチャルサーバ機能を利用して外部にサーバを公開する設定例です。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャルサーバ」をクリックします。

2　利用するサーバを選択します。

3　［更新］をクリックします。

メモ　「入力ポート番号」および「出力ポート番号」は、「プロトコル」で「ユーザ定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

サーバ名が表示される画面内に利用したいサーバがない場合は、以下のようにしてサーバを追加します。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャルサーバ」をクリックします。

2　プロパティの「有効にする」にチェックを入れます。

3　任意のサーバ名を入力します。

4　「接続先」のパソコンを選択します。

5　プロトコル、ポート番号を使用するサーバに合わせて入力します。

6　［追加］をクリックします。

7　「サーバ」の画面内に 3 で入力したサーバ名があることを確認してください。

8　［更新］をクリックして、設定を反映させせます。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「詳細設定」ー「バーチャルサーバ」（P.54）をご覧ください。

●ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャルサーバなどに接続することができる設定例です。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「ダイナミック DNS」をクリックします。

2　「DynDNS.org」（無料サービス）または「IvyNetWork」（有料サービス）をクリックして、設定を行います。そのときの「ログイン名」「ログインパスワード」「ドメイン名」は控えておいてください。

3　本商品の「ダイナミック DNS」画面に戻り、2 で控えた「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力します。

4　［保存］をクリックして、設定を反映させせます。

詳しくは「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「Advanced」－「ダイナミック DNS」（P.55）をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

（プロバイダと、フレッツ・スクウェア／フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループ／フレッツ・コネクト／フレッツ・コミュニケーションを利用する）

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション2のアカウント2」に設定する場合

1 通常のプロバイダの設定を行います。画面左側のメニューから［WAN］をクリックし、「接続タイプ」で「マルチ PPPoE」を選択して、［次へ］をクリックします。

2 「WAN －マルチ PPPoE」の「PPPoE 設定」で［アカウント 1］をクリックします。

3 接続指定は「セッション 1」を選択し、「ユーザ名」、「パスワード」にプロバイダから通知された「ユーザ名」「パスワード」を入力し、「オプション」、「DNS」の各設定を行い、［保存］をクリックし、［戻る］をクリックします。

4 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。
「PPPoE 設定」で［アカウント 2］をクリックします。

5 接続指定は「セッション2」を選択し、「ユーザ名」「パスワード」は、それぞれ以下の表の内容で入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

「セッション 2」を選択すると、「接続先設定」の設定ができるようになります。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザ名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2006 年 9 月現在）

6 「接続先設定」の［ドメイン追加］をクリックすると、「接続先設定」画面が表示されます。

7 「ドメイン名」に「.flets/」を入力し、［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

8 リストに登録された「.flets/」が反転表示になっていることを確認して［保存］をクリックし、設定内容を保存します。

9 ［閉じる］をクリックし、マルチ PPPoE の設定画面に戻ります。

10 ［保存］をクリックし、設定内容を反映させます。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「マルチPPPoE接続の場合」（P.35）をご覧ください。

●プロバイダとフレッツ・グループアクセス(NTT東日本)／フレッツ・グループ(NTT西日本)のLAN型払い出しに接続する

通常はプロバイダに接続し、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しを利用して、それぞれのパソコンのファイル共有などが必要な場合に、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）に自動的に接続されます。フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）を利用するには、「セッション２」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、「グループアクセス（NTT東日本）/フレッツ・グループ（NTT西日本）」への接続設定を「セッション2のアカウント2」に設定する。

1　通常のプロバイダの設定を行います。前ページの「プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する」の手順１～３を行います。

2　フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しの設定を行います。
「PPPoE設定」で［アカウント2］をクリックします。

3　接続指定は「セッション2」を選択し、グループ管理者から通知された「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

「セッション2」を選択すると、「LANTYPE」、「接続先設定」の設定ができるようになります。

4　オプションは、任意の「接続方法」を選択します。

5　「LAN TYPE」の「有効」にチェックを入れ、グループ管理者から通知されている、「IPアドレス」、「サブネットマスク」をそれぞれ入力します。

6　「DNSサーバ」を「自動取得」にします。

7　［保存］をクリックします。しばらくすると再度設定画面が開きます。［戻る］をクリックします。

8　［IPアドレス追加］をクリックして、接続先設定を行います。「IPアドレス」にグループ管理者から通知された接続相手のIPアドレスを入力し、［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

手順8で、接続先が複数ある場合はすべての接続先を登録してください。

9　リストに登録された「IPアドレス」を反転表示にして、［保存］をクリックし、設定内容を反映させます。

10［閉じる］をクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

11［保存］をクリックし、設定内容を反映させます。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「マルチPPPoE接続の場合」（P.35）をご覧ください。

- **ファイル共有など、使用するアプリケーションによっては、「WAN-マルチPPPoE」設定画面（P.35）の「接続先設定」にある「NetBios有効」が必要になります。**
- **フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しに接続する場合、必ず「WAN-マルチPPPoE」設定画面（P.35）の「接続先設定」にある「NetBios有効」にチェックを付けてください。**
- **IPアドレス範囲として複数のIPアドレスが割り当てられていて、それぞれのパソコンに固定IPアドレスを割り当てる場合は、パソコンのネットワーク設定が必要です。**
- **NetBiosを使用してコンピュータを指定する場合は、WINSサーバまたはLMHOSTSが必要です。**

●フレッツ・コネクト(NTT東日本)を利用する

フレッツ・コネクトは、Bフレッツ、フレッツ・ADSLをご利用のお客さま同士による、IP電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。簡単な番号（コネクトID）により相手先のIPアドレスを意識することなく接続できます。フレッツ・コネクトを利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、「フレッツ・コネクト」への接続設定を「セッション2のアカウント2」に設定する。

1　P.74の手順1～3をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コネクトの設定を行います。
「PPPoE設定」で［アカウント2］をクリックします。

3　接続指定は「セッション2」を選択し、フレッツ・コネクトで使用する「ユーザ名」「パスワード」をそれぞれ入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

「セッション2」を選択すると、「接続先設定」の設定ができるようになります。

4　「接続先設定」の［IPアドレス追加］をクリックして、「接続先設定」画面を表示させます。

5　「接続先設定」画面の「ネットワーク」に「172.0.0.0/8」を入力し、［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

6　リストに登録された「172.0.0.0/8」が反転表示になっていることを確認して［保存］をクリックして、設定内容を保存します。［閉じる］をクリックし、マルチPPPoEの設定画面に戻ります。

7　「接続先設定」の［ドメイン追加］をクリックして、「接続先設定」画面を表示させます。

8　「接続先設定」画面の「ドメイン名」に「.flets/」を入力して、［追加］をクリックし、同様に「ドメイン名」に「.connect」を入力して［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

9　リストに登録された「.flets/」「.connect」が反転表示になっていることを確認して［保存］をクリックし、設定内容を保存します。［閉じる］をクリックし、PPPoEの設定画面に戻ります。

10［保存］をクリックして、設定内容を有効にします。

11［Advanced］をクリックし、「その他各種設定」をクリックすると、「その他各種設定」画面が表示されます。

12「UPnP」の「UPnPを使って本製品の設定を変更する」にチェックを付け、［保存］をクリックして、設定内容を反映させます。

以上で、フレッツ・コネクトを利用するための本商品の設定は終了です。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コネクトをご利用ください。

ダイレクトPPPPoE接続でフレッツ・コネクトを使用する場合は、「フレッツ・コネクト」セットアップガイドをご覧ください。

- **フレッツ・コネクトをセッション1に設定した場合は、Windows® Messenger やMSN® Messengerなどのメッセンジャーソフトはご利用になれません。**
- **フレッツ・コネクトの詳細は、フレッツ・コネクトの説明書などをご覧ください。**

●フレッツ･コミュニケーション(NTT西日本)を利用する

フレッツ・コミュニケーションは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。簡単な番号（コネクトID）により相手先のIPアドレスを意識することなく接続できます。「フレッツ・コミュニケーション」を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション1のアカウント1」に、「フレッツ・コミュニケーション」への接続設定を「セッション 2 のアカウント 2」に設定する。

1 P.74 の手順 1 ～ 3 をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2 次にフレッツ・コミュニケーションの設定を行います。
「PPPoE 設定」で［アカウント 2］をクリックします。

3 接続指定は「セッション 2」を選択し、フレッツ・コミュニケーションで使用する「ユーザ名」「パスワード」をそれぞれ入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

「セッション 2」を選択すると、「接続先設定」の設定ができるようになります。

4 「接続先設定」の［IP アドレス追加］をクリックして、「接続先設定」画面を表示させます。

5 「接続先設定」画面の「ネットワーク」に「219.111.224.0/20」を入力し、［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

6 リストに登録された「219.111.224.0/20」が反転表示になっていることを確認して［保存］をクリックし、設定内容を保存します。［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ります。

7 「接続先設定」の［ドメイン追加］をクリックして、「接続先設定」画面を表示させます。

8 「接続先設定」画面で「ドメイン名」に「.flets-c.jp」を入力して［追加］をクリックすると、リストに登録されます。

9 リストに登録された「.flets-c.jp」が反転表示されていることを確認して［保存］をクリックして、設定内容を保存します。［閉じる］をクリックし、マルチ PPPoE の設定画面に戻ります。

10 ［保存］をクリックし、設定内容を有効にします。

11 ［Advanced］をクリックし、「その他各種設定」をクリックして、「その他各種設定」画面を表示させます。

12 「UPnP」の「UPnP を使って本製品の設定を変更する」にチェックを付け、セッション 2 を選択し、［保存］をクリックして、設定内容を保存します。

以上で、フレッツ・コミュニケーションを利用するための本商品の設定は終了です。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コミュニケーションをご利用ください。

- **UPnP を使用するセッションをフレッツ・コミュニケーションで接続するため、Windows® Messenger や MSN® Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**
- **フレッツコミュニケーションの詳細は、フレッツコミュニケーションの説明書などをご覧ください。**

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などが可能になります。

例：本商品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX. ○○○ . □□□ .115」と設定したい場合

1. 「WAN 側設定」－「PPPoE」画面から「PPPoE/Unnumbered IP」を選択し、［次へ］をクリックして画面を表示させます。

2. 任意のアカウントを選択して、「PPPoE 接続名」、「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

3. IP アドレスは「Unnumbered IP」のラジオボタンをクリックし、以下のように設定します。
   - ・ルータ IP → 「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します。
     （プロバイダから割り当てられた 2 番目の IP アドレスが入ります）
   - ・サブネットマスク → 「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
   - ・タイプ → 「Unnumbered IP」を選択します。

4. 優先 DNS サーバのラジオボタンをクリックして、「「12.34.56.12」と入力します。

5. ［保存］をクリックします。

6. 設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。
   - ・IP アドレス → 「XXX. ○○○ . □□□ .115」（設定したい IP アドレス）
   - ・サブネットマスク → 「255.255.255. ◆◆◆」
   - ・デフォルトゲートウェイ → 「XXX. ○○○ . □□□ .114」（ルータの IP アドレスと同じ）

変更方法は各 OS の取扱説明書をご覧ください。

7. 本商品の設定画面を再度見る場合は、ブラウザ画面で入力する数値を、「WAN 側設定」で設定した「XXX. ○○○ . □□□ .114」を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」「PPPoE 接続の場合」（P.33）をご覧ください。

Unnumbered を利用する場合は、LAN（パソコン側）に固定 IP アドレスを設定する必要があります。

社内LANとして使用するには

本商品はSOHOのLAN内のローカルルータとして使用する「ローカルオフィス」機能（P.42）を選択し、ネットワークを分けることができます。

●設定の流れ

1　LAN側の設定をする。

2　本商品をローカルオフィスモードにする。

3　本商品の上位にあるルータをスタティックルート設定にする。
※上位にあるルータの設定は、上位ルータの取扱説明書をご覧ください。

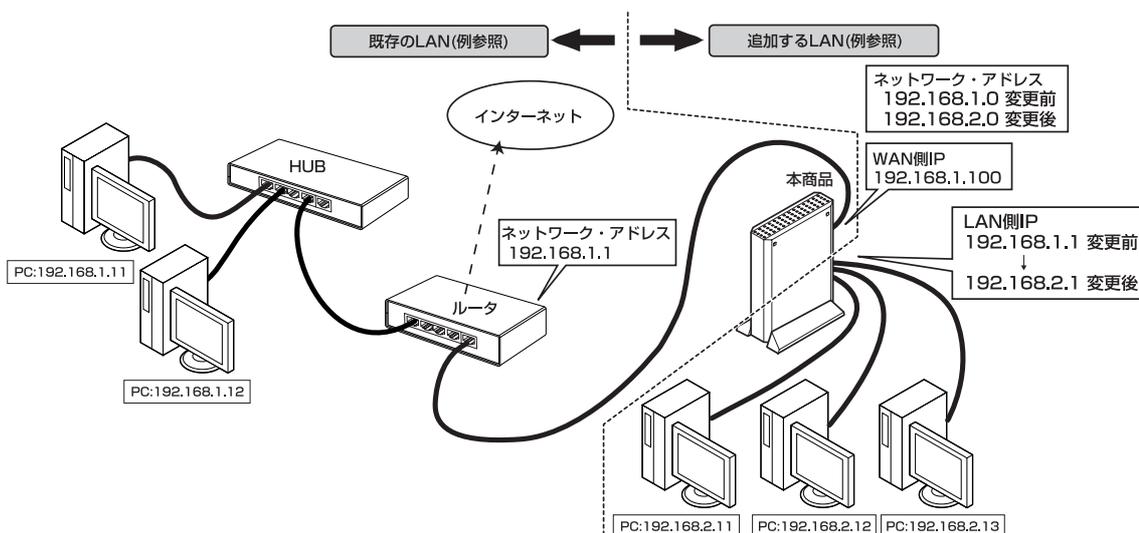
ここでは次のネットワーク環境を例として説明しています。

	ネットワーク・アドレス	サブネットマスク
既存のLAN（ルータのWAN側）	192.168.1.0	255.255.255.0
追加するLAN（ルータのLAN側）	192.168.2.0	255.255.255.0
WAN側IPアドレス	192.168.1.100	−

※値はすべて一例です。実際に入力する値は、ご使用の環境に合わせてください。

●LAN側の設定

上位ルータのネットワークと本商品のLAN側ネットワークが重複する場合にLAN側の設定を変更する必要があります。ここではLAN側IPアドレスの変更方法について説明します。

例：これからつなぐ上位ルータとネットワークが重複するため、「192.168.1.1」を「192.168.2.1」に変更する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。

LAN側の設定をするときは本商品と上位ネットワークとは接続しないで行ってください。

1　設定画面から「LAN 側設定」をクリックし、下記の項目を設定します。

① LAN 側 IP アドレスは、本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。
例：192.168.2.1（工場出荷時「192.168.1.1」から変更した場合）

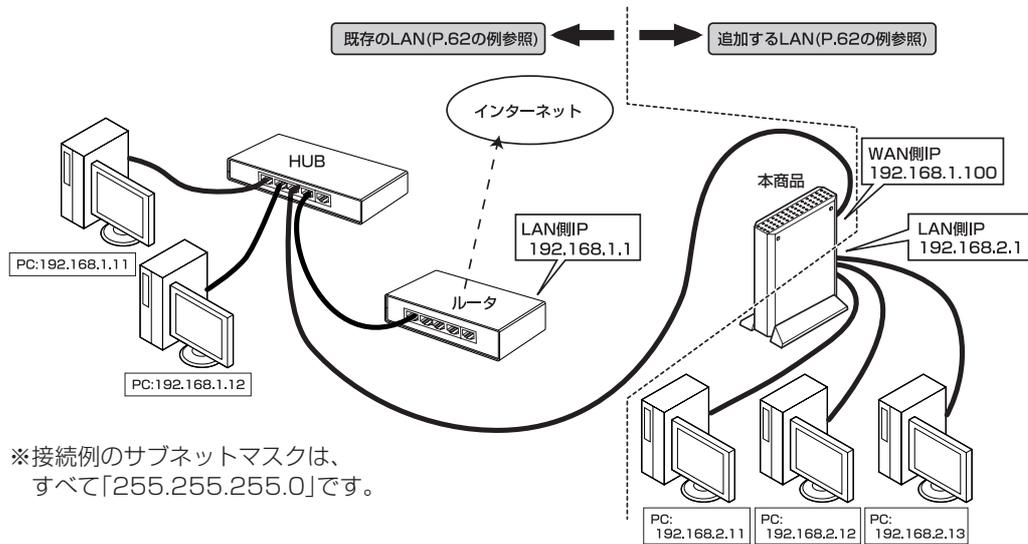
② サブネットマスクは本商品の LAN 側ポートに付けるサブネットマスクを入力してください。
例：255.255.255.0

2　［保存］をクリックします。LAN 側の設定が保存されます。

- ［保存］をクリックすると、LAN 側の IP アドレスが変更され、ユーティリティ設定画面が表示されなくなります。再度ユーティリティ画面を表示させるには、変更した LAN 側 IP アドレス（例では 192.168.2.1）をブラウザのアドレス欄に入力し、［移動］をクリックすると表示されます。表示できない場合は、ルータの電源を入れ直してください。
- パソコンの IP アドレスは自動取得に設定します。

以上で本商品の LAN 側 IP アドレスの設定ができました。次に「ローカルオフィスモードの設定」（次ページ）を行います。

●ローカルオフィスモードの設定

本商品が工場出荷状態のままのときは、追加するLANは以下のアドレス構成となり、動作モードはWAN側IP（自動取得）モードになっています。ここでは「WAN側設定」で本商品をローカルオフィスモードに変更して、WAN側IPアドレスを設定する方法で説明します。

1　本商品を上位ネットワークに接続します。

2　本商品に接続しているパソコンを起動します。

3　本商品の設定ユーティリティを開き、画面左側のメニューから［WAN］－「LOCAL OFFICE」をクリックします。（P.42）

4　必要な設定内容を入力します。

①本商品のWAN側ポートに付ける「IPアドレス」（例:192.168.1.100）を入力してください。

②「サブネットマスク」（例:255.255.255.0）を入力してください。

③「ゲートウェイ」（例:192.168.1.1）を入力してください。「ゲートウェイ」は、本商品がつながっている上位のルータと同じIPアドレスを入力します。

④「優先DNSサーバ」は、ISPまたは社内にあるDNSサーバのIPアドレスか、プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力してください。

5　［保存］をクリックします。

6　上位のルータに、本商品に対するスタティックルーティングの設定を行います。

メモ　**上位のルータの設定については、各ルータの管理者にご確認ください。**

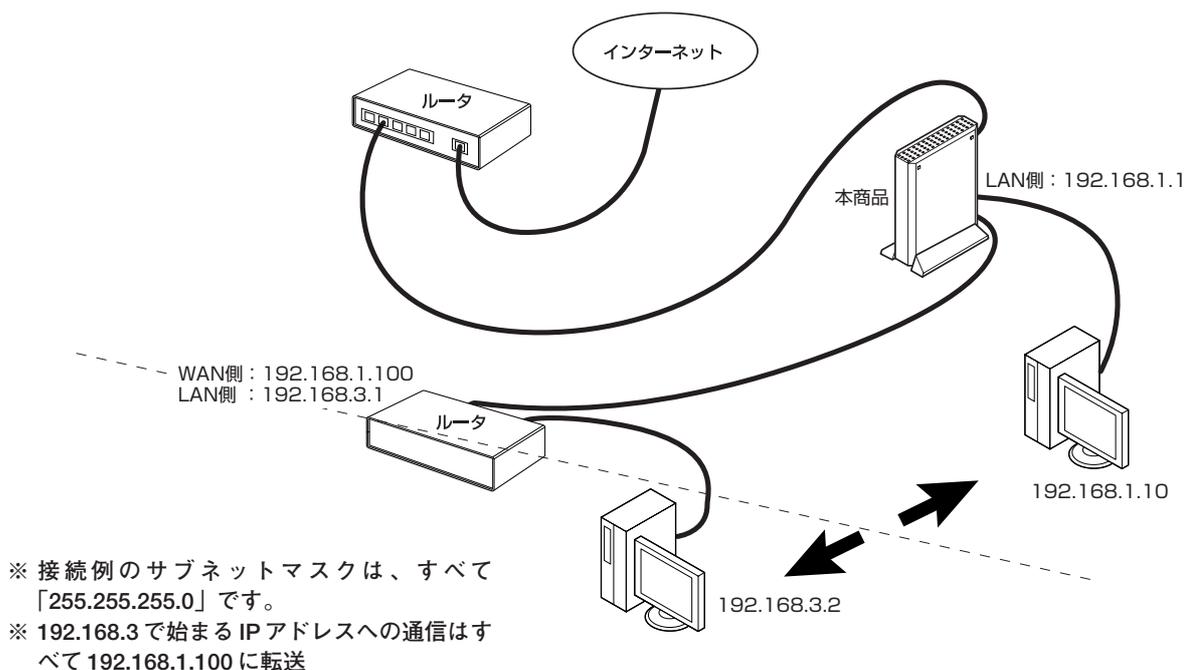
以上でローカルオフィスモードに設定することができました。

その他のルーティング設定例

ここでは本商品の下位にルータを追加する場合を説明します。

● スタティックルートの設定

隣接するルータが RIP に対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例：「ネットワーク・アドレス：192.168.3.0、サブネットマスク：255.255.255.0」というネットワークを追加する。

1　画面左側のメニューから「Advanced」－「ルーティング」画面を開き、以下の設定を行います。

①「接続先ネットワーク」は、通信の宛先となるネットワークのアドレスを入力してください。
（例:192.168.3.0）

②「サブネットマスク」は、「接続先ネットワーク」欄に入力したアドレスのどこまでがネットワークアドレスであるかを表す数値です。
（例:255.255.255.0）

③「ゲートウェイ」は、「接続先ネットワーク」欄と「サブネットマスク」欄で指定した宛先への経路となる、下位に追加するルータの WAN 側 IP アドレスを入力してください。
（例:192.168.1.100）

④「メトリック」は、データが届くまでの間にあるルータの数（本商品を含む）を入力します。（例:2 を入力）

WAN側設定で「ローカルオフィス」モードに設定した場合では「Interface」が追加で表示されます。お使いの環境にあわせて「WAN」または「LAN」を選択します。

3　［追加］をクリックし、「スタティックルーティングテーブル」画面に設定が追加されます。

4　表示を反転していることを確認して、［更新］をクリックし、設定を反映させます。

● RIPの設定

LAN側の別途ルータが存在する場合は、そのルーティング経路を本商品に設定する必要があります。本商品はダイナミックルーティングプロトコルである RIP 機能に対応していて、隣接するルータと RIP によって、自動的に経路の情報を交換できます。

- **隣接するルータが RIP に対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります〈「スタティックルートの設定」（前ページ）〉。**
- **本製品の RIP 機能は LAN 側のみに設定できます。**

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「ルーティング」をクリックし、「RIPv1 を使用する」にチェックを入れます。

3　［保存］をクリックします。

4　［更新］をクリックして、設定を反映させます。

ローカルオフィスモード時は、RIP は使用できません。

PART 5

トラブルや疑問があったら

本商品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

1. 取扱説明書や契約書を確認する。管理者に確認する

 それでも解決しないときは…

2. このPARTのQ&Aを確認する

【トラブルは？】

●インターネットに接続できない
①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
②電源は入っていますか？
③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
④ケーブル（モデム⇔本商品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
⑤その他の接続は大丈夫ですか？
⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
⑦パソコンのネットワーク設定は正しく行われていますか？
⑧プロバイダからの入力事項を正しく設定しましたか？
⑨ Webブラウザの設定は正しいですか？

●パソコン同士がつながらない
・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

●本商品の設定ユーティリティが起動しない
●本商品の設定ユーティリティにログインできない
●ファームウェアのアップデートに失敗した

【疑問は？】

●パソコンのIPアドレスを調べたい
●本商品のパスワードを変更したい
●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
●本商品の設定のバックアップを取る。元に戻す
●本商品を再起動する
●本商品を工場出荷時の状態にもどす

 それでも解決しないときは…

3. コレガのホームページの情報を活用する

 それでも解決しないときは…

4. サポート窓口に問い合わせてみる

取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する

本書以外にもプロバイダ契約時の設定取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本商品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダ、パソコンのメーカなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

●インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し、□にチェックを付けてください。

①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
B フレッツまたはフレッツ・ADSL ＋対応プロバイダなどの場合
□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか
□ B フレッツまたはフレッツ・ADSL に対応したプロバイダの工事は完了したか

②電源は入っていますか？
各接続機器の電源LED がついているか、またはACアダプタなどが外れていないかを確認してください。
□ ADSL モデムまたは回線終端装置などに電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）
□本商品に電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
□モデム（ADSL モデム、回線終端装置）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が正しく接続されているか
詳しい接続については、モデムや回線終端装置に付属の取扱説明書をお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本商品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
□本商品と ADSL モデムまたは回線終端装置は LAN ケーブルで正しく接続されているか
本商品とモデムが正常に接続されていると WAN LED が点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、モデムにMDI/MDI-X を切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。
□本商品とパソコンは LAN ケーブルで正しく接続されているか
パソコンと本商品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本商品の前面にある各 LAN ポートの Link/Act LED が点灯します。パソコンに LAN ボードまたは LAN カードがきちんと挿入されているか、LAN ポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認しましょう。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？
フレッツ・ADSL の場合
□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用と ADSL モデム用があります）
ADSL モデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
□パソコンのネットワークアダプタのドライバの設定は正しいか
「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）をご覧になり、パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく行われていますか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。

□割り当てられた固定IPアドレスなどが設定されているか

プロバイダから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、下記の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・Windows XPの場合（P.7）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順7「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows 2000の場合（P.10）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows Me／98SEの場合（P.14）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、割り付けられた「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

⑧プロバイダからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本商品およびパソコンに正しく入力したか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「本商品の設定をしよう」（P.21）で行ったプロバイダからの設定事項をすべて設定ユーティリティに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨Webブラウザの設定は正しいですか？

□Webブラウザの設定項目は正しいか

Webブラウザの設定についてはプロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。
Windows 98SEをお使いの場合、はじめてインターネットに接続すると、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、[次へ] をクリックします。

2 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、[次へ] をクリックします。

3 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

4 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、[次へ] をクリックします。

5 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いのOSによってはWebブラウザの設定を変更する必要があります。プロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。

●パソコン同士がつながらない

・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本商品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows ではMicrosoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各OSのヘルプをご覧ください。

●本商品の設定ユーティリティが起動しない

・パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか再度確認してください。

・プロキシサーバを使う設定になっていませんか？

□ Web ブラウザのプロキシサーバの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「Webブラウザの設定をしよう」（P.18）をご覧になり、Web ブラウザでプロキシサーバを使用しない設定にしてください。

・すでにフレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続している場合は

これまでパソコンにADSLモデムなどを直接接続して、フレッツADSL ／ B フレッツに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

□ Windows XP で、PPPoE 接続の設定がされていませんか？

Windows XPの「コントロールパネル」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルータの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

□「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTTより配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、フレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続するように設定されていると、ルータの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

●本商品の設定ユーティリティにログインできない

・別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

・パスワードを忘れた

本商品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本商品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」（P.94）をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、このPARTの「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したい」（P.89）をご覧になり、再設定してください。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。本商品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」（P.94）をご覧ください。

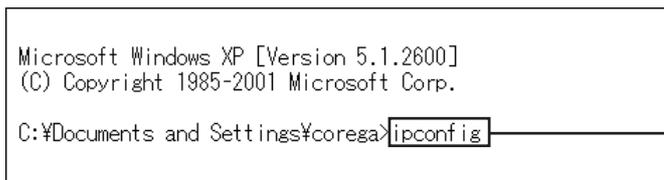
本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

●パソコンのIPアドレスを調べたい

本商品よりパソコンに割り当てられたIPアドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

■Windows XP／2000の場合

1　［スタート］－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3　IPアドレスを確認します。

■Windows Me／98SEの場合

1　［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］をクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択します。パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［すべて書き換え］をクリックしてください。

●本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したい

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定ユーティリティを起動し、画面左側のメニューから［Password］をクリックします。

・工場出荷時の状態では、パスワードは設定されていません。
・入力したパスワードは、画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないように注意してください。また、「”」および「"」以降に入力した文字は、保存されません。

2　ネットワークパスワード入力画面が表示されるので、新しいユーザ名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。

ログイン名およびパスワードで空白を設定すると、認証を行わずに設定ユーティリティにアクセスすることができます。

●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

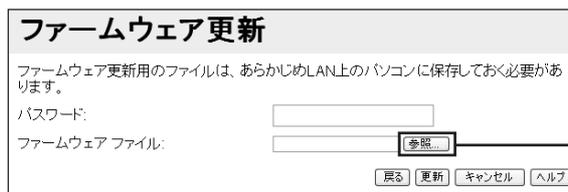
本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは当社のホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。

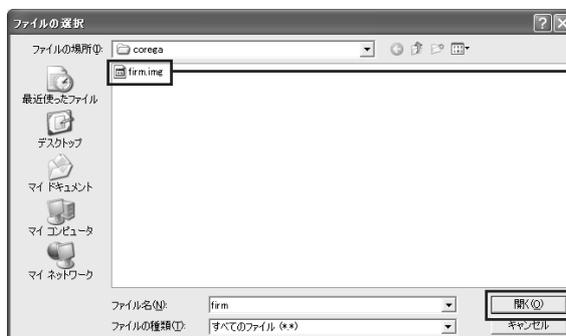
- 更新するファームウェアのバージョンによっては、更新前のお客様が設定されたデータが反映できない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモしておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、故障の原因となる場合があります。

ここでは例として「C:¥corega」を作成し、ダウンロードしたファームウェア「firm.img」（ファイル名は実際とは異なります）を保存した場合で説明します。

1 設定ユーティリティを起動し、画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2 ［ファームウェア更新］をクリックします。

3 ［参照］をクリックします。

4「C:¥corega」内の「firm.img」を選択し、［開く］をクリックします。

注意

ここで紹介している手順は例です。実際の手順では、ダウンロードしたファームウェアを解凍した場所からファームウェアを選択してください。

5　パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから［更新］をクリックします。

6　次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。ファームウェアの更新処理が開始されます。

注意　ファームウェアのアップデート中は、ユーティリティを強制的に終了させないでください。故障の原因になる恐れがあります。

7　次のダイアログボックスが表示されたら本体前面のStatus LEDが消灯していることを確認し［OK］をクリックします。

8　「ウィンドウは、表示中のWebページにより閉じられようとしています。このウィンドウを閉じますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。

9　Initスイッチを使って本商品の設定を工場出荷時に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）」（P.94）をご覧ください。

以上で、ファームウェアの更新は終了です。

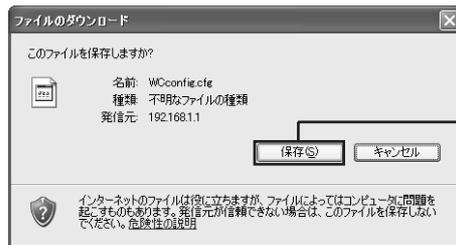
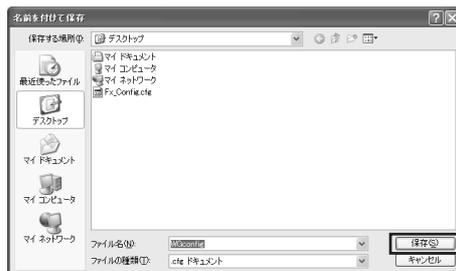
●本商品の設定のバックアップを取りたい／元に戻したい

現在の設定内容をバックアップし、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

■バックアップを取る

1　設定ユーティリティを起動し、画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2　［設定保存］をクリックします。

3　下画面が表示されたら、［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存先を指定して［保存］をクリックします。

ファイル名は任意につけることができます。

■元に戻す

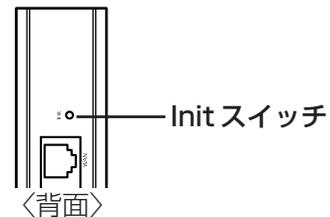
「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.90）と手順は同じです。手順４のファイルを選択するときに、上記「保存したい」で保存したファイルを選択してください。

●本商品を再起動したい

本商品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」「工場出荷時の状態に戻す」とは異なりますのでご注意ください。再起動には、次の２つの方法があります。

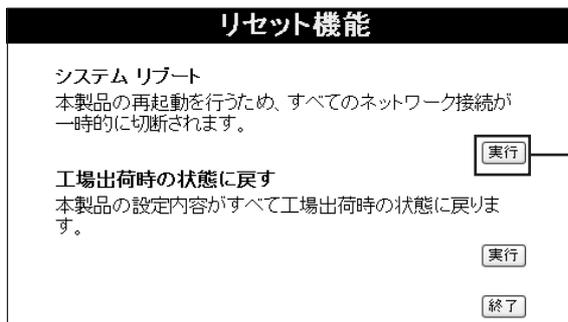
■ Init スイッチを使う

1　本商品の電源が入っている状態で、クリップなど堅くて先の細いものを使用し、本商品背面にある Init スイッチを約３秒程押します。Status LED が点灯します。

2　LEDがすべて消灯して、Power、接続されているLAN側100M・Link/Act、WANのLEDが再度点灯したら、再起動の終了です。

■設定ユーティリティを使って再起動する

1　設定ユーティリティを起動し、画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2　［リセット機能］をクリックします。

3「システムリブート」の［実行］をクリックします。

「システムリブートをおこないます。」と表示されるので、［OK］をクリックします。Status LED が点灯します。LED がすべて消灯して、Power、接続されている LAN 側の 100M、Link/Act、WAN の LED が再度点灯したら、再起動の終了です。

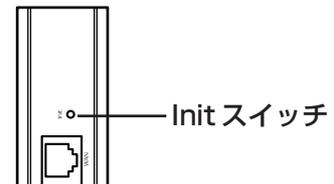
●本商品を工場出荷時の状態に戻したい（初期化）

本商品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定した情報が初期値になります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり「バックアップを取りたい／元に戻したい」（P.92）をして、後で再設定できるようにしておいてください。工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

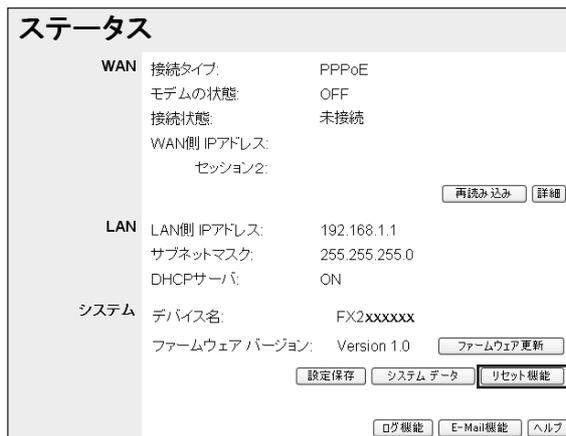
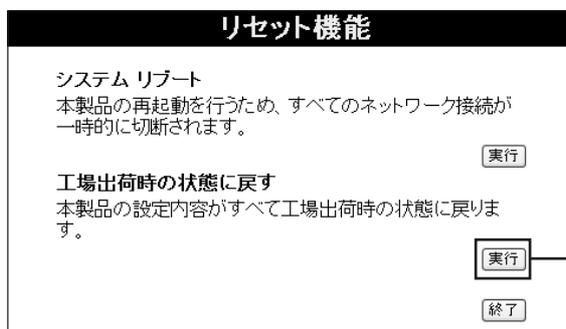
■ Init スイッチを使う

1　本商品の電源が入っていない状態で背面のInit スイッチを押しながら、AC アダプタをコンセントに差し込み、電源を入れます。Init スイッチはクリップなど堅くて先の細いもので押してください。

2　そのまま20秒以上Initスイッチを押し続けて、Initスイッチを離します。

3　LED がすべて消灯して、Power、接続されている LAN 側の 100M、Link/Act、WANのLEDが再度点灯したら、工場出荷時の状態に戻ります。

■設定ユーティリティを使って初期化する

1　設定ユーティリティを起動し、画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

2　［リセット機能］をクリックします。

3　「工場出荷時の状態に戻す」の［実行］をクリックします。

「工場出荷時の状態に戻します。」と表示されたら［OK］をクリックします。
LEDがすべて消灯して、Power、接続されているLAN 側の 100M、Link/Act、WANのLEDが再度点灯したら、工場出荷時の状態に戻ります。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

http://corega.jp/

それでも解決しなかったら…

以上のことをしても解決しなかったときは、弊社サポートセンタにお問い合わせください。問い合わせ先は、付属の「はじめにお読みください」の「製品に関するご質問は…」をご覧ください。

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSLモデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）のMACアドレスをプロバイダに事前申請してください。WAN側のMACアドレスは本体底面のMACアドレスラベルに記載されております。また設定ユーティリティからWANおよびLANのMACアドレスを閲覧することも可能です。設定ユーティリティ画面左側のメニューから［Status］－［システムデータ］をクリックして、「詳細情報」画面（P.45）をご覧ください。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社はいかなる責任も負いかねます。

2004年11月　初版
2006年10月　第三版